平成 30 年度　第 1 回地域社会連携本部会議　議事要旨

１．開催日時
平成 30 年 4 月 23 日（月）10：30～11：15

２．開催場所
東京・世田谷キャンパス　教育研究棟 1 街区 2501 中会議室

３．出席者（敬称略）
田中　勝将（世田谷区スポーツ推進部 スポーツ推進課 スポーツ推進担当係長）
※須藤 剛志（世田谷区スポーツ推進部 スポーツ推進課長）代理として出席
守屋　喜代司（横浜市市民局スポーツ統括室 スポーツ振興課長）
小野　道子（公益財団法人世田谷区スポーツ振興財団 管理課長）
森田　尚隆（公益財団法人 横浜市体育協会 地域スポーツ振興部長）
鈴木　康介（横浜市 青葉区 総務部 区政推進課長）
小林　正利（社会貢献推進機構　連携推進担当、アドミッションセンター長）
白旗　和也（社会貢献推進機構　ｽﾎﾟｰﾂﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝ・ｵﾌｨｽ　ｵﾌｨｽﾃﾞｨﾚｸﾀｰ）
大髙　秀二（事務局次長・健志台統括）
石井　砂織（社会貢献推進機構　ｽﾎﾟｰﾂﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝ・ｵﾌｨｽ　ｱｼｽﾀﾝﾄｵﾌｨｽﾃﾞｨﾚｸﾀｰ）
塚田　直彦（社会貢献推進機構　ｽﾎﾟｰﾂﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝ・ｵﾌｨｽ　主任）
長坂　実早紀（社会貢献推進機構　ｽﾎﾟｰﾂﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝ・ｵﾌｨｽ　ｵﾌｨｽｽﾀｯﾌ）
岡田　順治（社会貢献推進機構　ｽﾎﾟｰﾂﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝ・ｵﾌｨｽ　ｵﾌｨｽｽﾀｯﾌ）

４．配付資料
資料 1　　平成 29 年度事業報告書
資料 2－1　平成 29 年度日本体育大学社会貢献推進機構自己点検・評価報告書
資料 2－2　外部評価委員会「社会貢献推進事業評価委員会」評価報告書
資料 2－3　外部評価委員会（教育活動、研究活動、地域活動）報告書
資料 3　　中期計画（平成 30 年度以降）について
資料 4　　平成 30 年度事業方針及び事業計画（案）
資料 5　　平成 30 年度公開講座等について
参考資料 1　協定書
参考資料 2　地域社会連携本部規則
参考資料 3　地域社会本部構成員一覧
参考資料 4　日本体育大学社会貢献推進機構及びｽﾎﾟｰﾂﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝ・ｵﾌｨｽ構成ﾒﾝﾊﾞｰ
参考資料 5　日体大地域スポーツコーディネーター（日体大 CSC）制度の創設

５．議　事
開会に先立ち、松井幸嗣副機構長（副学長）より挨拶があり、当本部会議開催の経緯説明がなされた後、構成員への謝辞が述べられた。なお、副機構長は公務のためこの後退席となった。
次いで、議事に先立ち、石井アシスタントオフィスディレクターより、当本部会議開催に関する謝意が述べられた後、出席者の紹介と会議資料の確認が行われた。
また、「地域社会連携本部規則第 4 条」に基づく互選による議長選出については、小林正利教授（連携推進担当）が満場一致で選出された。

６．報告事項

（１）平成 29 年度社会貢献事業報告（1 月~12 月）【資料 1】

石井アシスタントオフィスディレクターより、資料に基づき、次のとおり説明があった。

昨年度から比較すると、質的・量的な向上が図られた。また、外部からのボランティア依頼件数に増加がみられた。そのため、現状では、依頼を断らざるを得ない場合もあり、今後はこの状況を改善できるよう検討したい。

また、当機構が活動の地域として掲げているキャンパス所在地である東京都世田谷区、青葉区を中心とした横浜市以外からの依頼も増加しており、可能な限りの対応をしているが、要望に応え切れないのが現状である。

（２）平成 29 年度日本体育大学社会貢献推進機構自己点検・評価報告及び外部評価委員会報告について【資料 2-1、2-1、2-3-①②③】

小林議長より、資料に基づき、次のとおり報告があった。

資料は、平成 29 年度事業報告書（資料 1）をもとに、社会貢献活動の点検・評価を行いまとめ、その後当機構の運営戦略会議及び評価チームにより確認がなされたものである。

（３）CSC 資格制度創設の進捗状況について【参考資料 5】

小林議長より、資料に基づき、次のとおり報告があった。

昨年の 7 月に開催された各教授会において、4 つの資格について進めることが決定した。その後、プロジェクトチームにて検討を進め、スポーツ文化学部、スポーツマネジメント学部、児童スポーツ教育学部の 3 つの学部において、平成 31（2019）年度からスタートさせることで原案が固まった。

なお、保健医療学部については、他の資格（アスレティックトレーナー）取得を可能としたことから、CSC 資格制度については、当面取り扱わないこととなっている。また、体育学部については、今後カリキュラムの改訂が行われる予定となっているため、ここに合せて検討される予定となっている。

７．審議事項

（１）中期計画（平成 30 年度以降）について【資料 3】

小林議長より、資料に基づき、本年が当機構発足から 5 年目となるため、新たな 5 年間の中期計画を立案、基本的には人材育成・研究活動の充実と、「する」、「観る」、「支える（育てる）」を柱とした各種取組みの拡大、さらには、2020 年に開催される東京オリンピック・パラリンピックへの対応等を中心とした計画となっている旨説明があり、提案、以下の意見があり、審議の結果、原案どおり承認された。

【意見等】

・総合型地域スポーツクラブは、大学が主体となってやるのか？

→本学主体による創設を予定しているが、深部までの検討に至っていないため、今後時間をかけて検討を進めたいと考えている。

（２）平成 30 年度事業方針及び事業計画について【資料 4】

小林議長より、平成 30 年度事業方針及び事業計画について、中期計画を踏まえて、基本的には、「CSC 制度」の決定運用を中心とし、それ以外については、前年度を踏襲する内容としている旨説明があり、資料に基づき提案、以下の意見等があり、審議の結果、原案どおり承認された。

【意見等】

・「（社会貢献）③オリンピックムーブメントの推進」とあるが、取組み内容の詳細について聞きたい。

→全学的には、①競技力の向上、②オリンピックイヤーに特化したカリキュラムの検討③スポーツ活動の活性化等を柱とした取組みを想定している。また、2020 年以降も持続可能なレガシーとなる取組みを目指したい。

・「（研究）②地域障害者スポーツ機会の向上と指導者支援」とあるが、日体大ではどのようなスポーツを考えていくのか。

→様々なものがあるが、パラリンピックに向けたパラスポーツに傾注したものになっていくかと思われる。

（３）平成 30 年度公開講座等について【資料 5】

小林議長より、資料に基づき提案、以下の意見があり、審議の結果、原案どおり承認された。

【意見等】

・出前講座の実施は予定しているか？

→実施の方法等について模索しているところである。学校現場や地域の集まり等を想定しているが、この他にも適切な機会があれば、今後構成員からも情報をご提供いただきたい。

（４）その他

①地域社会連携本部規則の一部改正について【参考資料 2】

石井アシスタントオフィスディレクターより、公益財団法人世田谷区スポーツ振興財団理事長から、地域社会連携本部の構成員について、担当を事務局次長から管理課長に変更したいと文書にて申し出があった旨説明がなされた。このことから、小林議長より、資料に基づき、地域社会連携本部規則第 2 条第 1 項第 3 号の構成員を公益財団法人世田谷区スポーツ振興財団事務局次長から事務局管理課長に変更としたいとの提案があり、審議の結果、原案どおり承認された。

②平成 29 年度公開講座の追加について

塚田スポーツプロモーション・オフィス主任より、平成 29 年度スポーツ庁委託事業に係わり、アスレティックデパートメントから公開講座「スポーツ教室（ビーチバレーボール）」開催の申請があったが、年度途中であったことから機構長の了解を得て、2 月 24 日に実施した旨報告があった。小林議長より、追認ということになってしまうが平成 29 年度公開講座として追加したい旨提案があり、審議の結果、承認された。

最後に、石井アシスタントオフィスディレクターより、本事業に関する継続的な協力についての依頼と第 2 回地域社会連携本部会議を 9 月頃に予定している旨連絡があり、閉会となった。

以上

平成29年　社会貢献事業報告書

1月

■チャレスポ！ＴＯＫＹＯ 運営サポート
（平成29年1月9日(月)、㈱日テレイベンツ）
【実施担当者】
人材バンク（4名）

■保育園における活動補助
（平成29年1月19日(木)、私立用賀なのはな保育園）
【実施担当者】
児童スポーツ教育学部学生（49名）

■第5回クリーン大作戦
（平成29年1月21日(土)、東京・世田谷キャンパス 横浜・健志台キャンパス）
【実施担当者】
クラブ・サークル（97名/25団体）

2月

■等々力保育園さくらんぼ組クラス懇親会
（平成29年2月5日(日)、九品仏地区会館）
【実施担当者】
時本　久美子（児童スポーツ教育学部 教授）
保育研究サークル、幼児教育保育コース学生
（6名）

■健康運動教室「膝痛さようなら体操教室」
（平成29年2月11日(土)10:00～11:30、横浜・健志台キャンパススポーツキュアセンター）
【受講者数】21名
【実施担当者】
伊藤 譲（保健医療学部 教授 ｽﾎﾟｰﾂｷｭｱｾﾝﾀｰ院長）
ほか5名の講師
【補助】
保健医療学部柔道整復医療学科学生7名

■スポーツ教室「ヤングウィンターキャンプ」バレーボール
（平成29年2月11日(土)9:30～16:30、東京・世田谷キャンパス メインアリーナ）
【受講者数】44名
【実施担当者】
根本　研（体育学部 准教授）ほか
【補助】
学友会バレーボール女子　24名

■スポーツ学生との交流授業
（平成29年2月17日(金) 8:00～14:30、大田区立貝塚中学校）
【実施担当者】学友会陸上競技部（4名）

■餅つき大会
（平成29年2月18日(土) 、いずみ保育園父母会）
【実施担当者】
学友会相撲部（3名）

■日本財団パラリンピックサポートセンター
「あすチャレ！運動会」パラスポーツのモニター体験
（平成29年2月23日(木) 、横浜・健志台キャンパス）
【実施担当者】
学友会ハンドボール部（60名）

3月

■中央区 平成28年度スポーツ指導者養成セミナー
フォロー研修講師「スポーツ事故と安全対策」
（平成29年3月27日(月)18:30～20:30、中央区役所）
【実施担当者】
冨田 幸博（ｽﾎﾟｰﾂ経営管理学 教授）

■中国青年公益事業交流団(宋慶齢基金会)視察
（平成29年3月28日(火)14:00～、東京・世田谷キャンパス 大会議室、各施設）
【参加者】30名＋2名
【実施担当者】
スポーツプロモーション・オフィス

通年　H29.1月～H29.3月

■スポーツ教室「柔道教室」
（火･木17:00～19:00･土9:00～12:00、横浜・健志台キャンパス 第1体育館柔道場）
【受講者数】25名（1～3月）
【実施担当者】
山本 洋祐（体育学部 教授 柔道研究室）
小嶋 新太（保健医療学部 准教授 柔道研究室）
清水 大輔（体育学部 助教 柔道研究室）
【補助】学友会柔道部

4月

■フラワーネックレス青葉2017オープニングイベント
（平成29年4月9日(日)、青葉スポーツプラザ）
【実施担当者】
学友会ダブルダッチサークル（5名）

■ダブルダッチに挑戦しよう！
（平成29年4月15日(土)、ハッピーテラス本八幡(発達障害児放課後等デイサービス)）
【実施担当者】
学友会ダブルダッチサークル（5名）

■桜新町商店街「さくらまつり」売店その他アルバイト
（平成29年4月16日(日)、桜新町商店街）
【実施担当者】
深沢寮生、和泉寮生（20名）

■桜新町親和会 ゴミゼロデー 桜の花びらの清掃
（平成29年4月22日(土)、桜新町親和会地域内桜並木）
【参加者数】152名
【実施担当者】
深沢寮生、和泉寮生（6名）

■目黒区 平成29年度部活動外部指導員等全体研修
（春季）(平成29年4月25日(火)、目黒区総合庁舎）
【実施担当者】
南部 さおり（スポーツ文化学部 准教授）

■平成29年度 立川市公立学校体育実技研修会における補助等
（平成29年4月28日(金)13:00～18:00、立川市立第一小学校）
【実施担当者】
教職教育研究室（1名）

■平成29年度 第1回地域社会連携本部会議
（平成29年4月28日(金)12:00～13:30、東京・世田谷キャンパス 2501中会議室）
【出席者】
渡邉 謙吉、守屋　喜代司、中潟　信彦、森田　尚隆、鈴木　康介、小林　正利、三宅　良輔、野井　真吾、白旗　和也
【書記】
大髙 秀二 、増岡　啓彰、塚田 直彦 、岡田　順治、大久保 瞳
【報告事項】
① 平成28年度日本体育大学社会貢献推進機構自己点検・評価報告書及び外部評価委員会報告について【資料1－1、2、3】
② スポーツ文化学部の開設について
③ 学校法人日本体育大学協賛金取扱い要項【資料2】
④ その他
【審議事項】
① 平成29年度事業方針・事業計画（案）について【資料3】
② その他
【配付資料】
資料1-1　日本体育大学社会貢献推進機構自己点検・評価報告書
資料1-2　外部評価委員会「社会貢献推進事業評価委員会」報告書
資料1-3　外部評価委員会（教育活動、研究活動、地域活動）報告書
資料2　学校法人日本体育大学協賛金取扱要項
資料3　平成29年度事業方針及び事業計画(案)
参考資料1　協定書
参考資料2　地域社会連携本部規則
参考資料3　地域社会連携本部構成員一覧
参考資料4　日本体育大学社会貢献推進機構及びｽﾎﾟｰﾂﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝ・ｵﾌｨｽ構成メンバー
参考資料5　短期・中期計画

5月

■第1回クリーン大作戦
（平成29年5月20日(土)、東京・世田谷キャンパス 横浜・健志台キャンパス）
【実施担当者】
クラブ・サークル（86名/21団体）

■健康運動教室「らくらくエアロビクス運動教室」
（平成29年5月20日(土)11:00～12:30、東京・世田谷キャンパス スポーツ棟BF 5B03体操場）
【受講者数】20名
【実施担当者】
三矢 八千代　大津 桂子(体力学研究室 非常勤講師)
【補助】学友会エアロビック同好会

■保育園における活動補助
（平成29年5月22日(月)、世田谷区立深沢保育園）
【実施担当者】
児童スポーツ教育学部学生（47名）

■生涯スポーツ体験授業
（平成29年5月26日(金)9:00～11:50、横浜市立日野中央高等特別支援学校）
【実施担当者】
学友会ダンス部、学友会体操部（10名）

■健康運動教室「らくらくエアロビクス運動教室」
（平成29年5月27日(土)11:00～12:30、横浜・健志台キャンパス 第3体育館）
【受講者数】13名
【実施担当者】
非常勤講師　三矢 八千代　大津 桂子(体力学研究室)
【補助】学友会エアロビック同好会

■第34回横浜市ふれあいスポーツ大会
（平成29年5月28日(日)9:30～15:00、横浜市心身障害児者を守る会連盟／横浜三ツ沢公園補助陸上競技場）
【参加者数】　481名
【実施担当者】学友会相撲部（8名）

■保育園における活動補助
（平成29年5月29日(月)、世田谷区立深沢保育園）
【実施担当者】
児童スポーツ教育学部学生（48名）

6月

■指導講習会「救命蘇生法講習会」
（平成29年6月3日(土)13:00～15:30、東京・世田谷キャンパス 1301教室）
【受講者数】 15名
【実施担当者】
小川 理郎 （保健医療学部 教授）
鈴木 健介 （保健医療学部 助教）
坂田 健吾 （救急救命指導員）
【補助】保健医療学部救急医療学科学生

■学校生活支援員（運動会／特別な支援が必要な生徒の支援）
（平成29年6月3日(土)、世田谷区立千歳中学校）
【実施担当者】人材バンク（2名）

■古着・古布回収
（平成29年6月4日(日) 9:00～12:00、深沢地区ごみ減量･ﾘｻｲｸﾙ推進委員会）
【実施担当者】深沢寮生（10名）

■教員免許取得希望者向けガイダンスでの教育ボランティアの紹介
（平成29年6月5日(月)～9日(金)、東京・世田谷キャンパス、横浜・健志台キャンパス）
【受講者数】624名
【実施担当者】スポーツプロモーション・オフィス

■健康運動教室「ゆるヨガ～はじめてのヨガ～」
（平成29年6月11日(日)10:30～12:00、東京・世田谷キャンパス 3B03体育館）
【受講者数】 16名
【実施担当者】 金附 明花（日本体育大学卒業
全米ヨガアライアンスRYT200資格保有）

■健康運動教室・指導講習会「筋トレのすゝめ:筋トレ初心者のためのダンベル、バーベルを使ったエクササイズ」
（平成29年6月11日(日) 15:00～17:00、東京・世田谷キャンパス スポーツ・トレーニングセンター）
【受講者数】18名
【実施担当者】
菊池 直樹（トレーニング研究室 助教）
小畑 直之（トレーニング研究室 助教）
【補助】トレーニング研究室学生

■第2回クリーン大作戦
（平成29年6月24日(土)、東京・世田谷キャンパス 横浜・健志台キャンパス）
【実施担当者】
クラブ・サークル（118名/21団体）

■健康運動教室「らくらくエアロビクス運動教室」
（平成29年6月24日(土)11:00～12:30、東京・世田谷キャンパス スポーツ棟BF 5B03体操場）
【受講者数】22名
【実施担当者】
非常勤講師 三矢 八千代 大津 桂子(体力学研究室)
【補助】
学友会エアロビック同好会

■健康運動教室「ゆるヨガ～はじめてのヨガ～」
（平成29年6月25日(日)10:30～12:00、東京・世田谷キャンパス 3B03体育館）
【受講者数】 19名
【実施担当者】 金附 明花（日本体育大学卒業
全米ヨガアライアンスRYT200資格保有）

7月

■公開講座「女性の健康とスポーツ障害・事故の予防」
（平成29年7月1日(土) 13:00～16:00、横浜・健志台キャンパス 1402教室）
【受講者数】 184名
【講義内容】
座長 武藤 芳照（保健医療学部 教授/特別招聘教授）
司会進行 岡部 綱好（保健医療学部 講師）
開会挨拶 笠井 里津子（副学長）
第1部
1. 選手の立場から（対談）
武藤芳照教授、細田 あい（体育学部4年）
2. 指導者の立場から
村田 由香里（保健医療学部 助教）
3. 競技力向上サポートの立場から
黄 仁官（保健医療学部/大学院博士課程前後期トレーニング科学系 准教授）
第2部
1. 女性スポーツ選手の疲労骨折
猪越 孝治（保健医療学部 准教授）
2. スポーツに伴う救急事故の実態
越智 美穂（青葉消防署奈良消防出張所所長/救急救命士）
3. 女性スポーツ選手のひざ関節痛
久保山 和彦（保健医療学部 准教授）
第3部 総括質疑
閉会挨拶 平沼 憲治（保健医療学部長 教授）

■健康運動教室「肩痛さようなら体操教室」
（平成29年7月2日(土)10:00～11:30、横浜・健志台キャンパス3号館1F スポーツキュアセンター 横浜・健志台接骨院）
【受講者数】10名
【実施担当者】
伊藤 譲（保健医療学部(整復医療学科長)教授/
ｽﾎﾟｰﾂｷｭｱｾﾝﾀｰ院長 ）ほか計5名の講師
【補助】
保健医療学部学生

■新体操(ボール･リボン)のデモンストレーション
（平成29年7月2日(土) 14:00～14:30、トラストガーデン等々力(老人ホーム) ダイニング）
【実施担当者】
学友会新体操部（3名）

■保育園における活動補助
（平成29年7月7日(金)、世田谷区立深沢保育園）
【実施担当者】
児童スポーツ教育学部学生（47名）

■大クリーン大作戦 第1弾 in 岩井海岸
（平成29年7月8日(土)、千葉県 岩井海岸）
【実施担当者】
クラブ・サークル（88名/15団体）

■指導講習会「水辺の安全教室」（Ｂ＆Ｇ財団共催）
（平成29年7月8日(土) 9:30～12:30 13:30～16:30、東京・世田谷キャンパス 5B04 プール）
【受講者数】10名
【実施担当者】
公益財団法人B&G財団 職員
【補助】
学友会アクアスポーツ研究会

■日本と台湾の中学生によるバスケットボール親善試合の審判
（平成29年7月8日(土) 15:00～18:00、世田谷区議会／世田谷区立梅丘中学校体育館）
【実施担当者】
学友会バスケットボール部（3名）

■「からだのかたちと立位・歩行動作をはかる」
（平成29年7月8日(土) ①8:30～10:30 ②10:30～12:30 ③13:00～15:00 ④15:00～17:00、横浜・健志台キャンパス 1M206 測定室）
【受講者数】35名
【実施担当者】船渡 和男（体育学部 教授）
【補助】スポーツバイオメカニクス研究室学生

■駒沢わんぱく相撲
（平成29年7月13日(木) 10:30～12:00、世田谷区立駒沢保育園 ホール）
【実施担当者】
学友会相撲部（2名）

■「からだのかたちと立位・歩行動作をはかる」
（平成29年7月15日(土) ①8:30～10:30 ②10:30～12:30 ③13:00～15:00 ④15:00～17:00、横浜・健志台キャンパス 1M206 測定室）
【受講者数】33名
【実施担当者】船渡 和男（体育学部 教授）
【補助】スポーツバイオメカニクス研究室学生

■公開講座「第26回幼児教育講座」
（平成29年7月22日(土) 9:30～16:00、東京・世田谷キャンパス 2503大会議室、5B03体操場）
【受講者数】40名
【講義内容･実施担当者】
開校式　久保　健（児童スポーツ教育学部 教授）
第1部　「成長期の子どもの食と栄養、食育」
安達 瑞保（児童スポーツ教育学部 助教）
第2部　「リトミック」
鈴木 恵津子（非常勤講師）
閉講式　岡本 美和子（児童スポーツ教育学部 教授）
【補助】
児童スポーツ教育学部学生

■地域合同総合消防訓練（平成29年度第1回）
（平成29年7月23日(日) 10:00～13:00、等々力の家（老人ホーム））
【実施担当者】
深沢寮生、和泉寮生（10名）

■平成29年度納涼祭
（平成29年7月30日(日) 14:00～18:00、等々力の家（老人ホーム））
【実施担当者】
人材バンク（2名）

■親子でうたっておどろう
（平成29年7月30日(日) 、たけのこぐみ）
【実施担当者】
学友会バレーボール部男子（10名）

8月

■販売会補助（せたがやふるさと区民まつり）
（平成29年8月5日(土)、社会福祉法人 泉会 泉の家）
【実施担当者】人材バンク（1名）

■サッカーワールドカップ 予選パブリックビューイング「アジア最終予選―ROAD TO RUSSIA―」
（平成29年8月31日(木) 19:00～、東京・世田谷キャンパス記念講堂）
【参加者数】83名
【実施担当者】
スポーツプロモーション・オフィス、スポーツ経営管理学ゼミ、国語科教育ゼミ、体育管理研究サークル（17名）

9月

■放課後子ども教室「ダブルダッチを楽しもう」
（平成29年9月1日(金) 、相模原市立麻溝こどもセンター）
【実施担当者】
学友会ダブルダッチサークル（5名）

■「これもまた日体大の力！脳トレ」
（平成29年9月2日(土) 13:00～16:00、東京・世田谷キャンパス 1201教室、5B03体操場）
【受講者数】5名
【実施担当者】
天野 勝弘（ｽﾎﾟｰﾂﾊﾞｲｵﾒｶﾆｸｽ研究室 非常勤講師）
渡邊 奈々（埼玉純真短期大学 非常勤講師）

■環境美化作業
（平成29年9月10日(日)、グリーンヒル鴨志田西団地）
【実施担当者】
本学教職員（30名）

■健康運動教室「らくらくエアロビクス運動教室」
（平成29年9月16日(土)10:30～12:00、東京・世田谷キャンパス スポーツ棟BF 5B03体操場）
【受講者数】20名
【実施担当者】
非常勤講師　三矢 八千代　大津 桂子(体力学研究室)
【補助】
学友会エアロビック同好会

■指導講習会「救命蘇生法講習会」
（平成29年9月17日(日)13:00～15:30、横浜・健志台キャンパス 9103A臨地実習室）
【受講者数】 51名
【実施担当者】
小川 理郎　（保健医療学部 教授）
鈴木 健介　（保健医療学部 助教）
坂田 健吾　（救急救命指導員）
【補助】
保健医療学部救急医療学科学生

■ダブルダッチ披露、体験
（平成29年9月19日(火) 、世田谷区立玉川保育園）
【実施担当者】
学友会ダブルダッチサークル（10名）

■運動会に向けてのなわとび
（平成29年9月19日(火) ･21日(木)、世田谷区立深沢保育園）
【実施担当者】
学友会ダブルダッチサークル（10名）

■健康運動教室・指導講習会「筋トレのすゝめ: トレーニング実践者向け -ベーシックエクササイズ、クイックリフトを極める-」
（平成29年9月24日(日) 15:00～17:00、東京・世田谷キャンパス スポーツ・トレーニングセンター）
【受講者数】18名
【実施担当者】
菊池 直樹（トレーニング研究室 助教）
小畑 直之（トレーニング研究室 助教）
【補助】トレーニング研究室学生

■目黒区 平成29年度部活動外部指導員等全体研修（秋季）
（平成29年9月26日(火)、目黒区総合庁舎）
【実施担当者】
伊藤 雅充（体育学部 教授）

10月

■健康運動教室「らくらくエアロビクス運動教室」
（平成29年10月1日(日)10:30～12:00、東京・世田谷キャンパス スポーツ棟BF 5B03体操場）
【受講者数】21名
【実施担当者】
非常勤講師　三矢 八千代　大津 桂子(体力学研究室)
【補助】
学友会エアロビック同好会

■世田谷区教育委員会
世田谷区中学校陸上競技大会補助員
（平成29年10月3日(火)、世田谷区立総合運動場 陸上競技場）
【実施担当者】
学友会陸上競技部（17名）

■「これもまた日体大の力！脳トレ」
（平成29年10月7日(土) 13:00～16:00、東京・世田谷キャンパス 2206教室）
【受講者数】9名

【実施担当者】
天野 勝弘（ｽﾎﾟｰﾂﾊﾞｲｵﾒｶﾆｸｽ研究室 非常勤講師）
畠山 珠代（国際ｽﾎﾟｰﾂﾗｲﾌﾀｲﾑ協会理事 株式会社ｴﾝﾌﾟﾗｽ代表）　株式会社 丸五

■日本の国技・相撲を見て楽しんで頂く
（平成29年10月8日(日)、トラストガーデン等々力）
【実施担当者】学友会相撲部（3名）

■Ｂリーグ開幕戦ハーフタイムショー（新体操）
（平成29年10月10日(日)、アルバルク東京）
【実施担当者】学友会新体操部（19名）

■防災訓練 in 日本体育大学
（平成29年10月14日(土)～15日(日)、横浜・健志台キャンパス）
【受講者数】253名
【実施担当者】
スポーツプロモーション・オフィス
【補助】保健医療学部学生（5名）

■健康運動教室「ゆるヨガ～はじめてのヨガ～」
（平成29年10月15日(日)10:30～12:00、東京・世田谷キャンパス 3B03体育館）
【受講者数】 17名
【実施担当者】 金附 明花（日本体育大学卒業
全米ヨガアライアンス RYT200資格保有）

■体力測定
（平成29年10月21日(土)・22日(日) 東京・世田谷キャンパス 教育研究棟2F 10:00～15:30 22日は荒天の為12:30まで）
【参加者数】 211名
【実施担当者】
中里 浩一（保健医療学部 教授）
岡本 孝信（体育学部 教授）
須永 美歌子（児童スポーツ教育学部 教授）
菊池 直樹（体育学部 助教）
山田 満月（体育学部 助教）
重田 唯子（体育学部 助手）
学生アルバイト

■第9回こどものまちフェスティバル
（平成29年10月22日(日) 10:30～12:00、世田谷区立深沢児童館）
【実施担当者】
深沢寮生（8名）

■世田谷区教育委員会
世田谷区小学校連合運動会補助員
（平成29年10月24日(火)～26日(木) 8:30～16:00、世田谷区立総合運動場 陸上競技場）
【実施担当者】
学友会陸上競技部
児童スポーツ教育学部学生（延べ79名）

■「これもまた日体大の力！脳トレ」
（平成29年10月28日(土) 13:00～16:00、東京・世田谷キャンパス 5105体操場）
【受講者数】5名
【実施担当者】
天野 勝弘（ｽﾎﾟｰﾂﾊﾞｲｵﾒｶﾆｸｽ研究室 非常勤講師）
株式会社 丸五

■健康運動教室「らくらくエアロビクス運動教室」
（平成29年10月29日(日)10:30～12:00、横浜・健志台キャンパス 第3体育館）
【受講者数】25名
【実施担当者】
非常勤講師　三矢 八千代　大津 桂子(体力学研究室)
【補助】
学友会エアロビック同好会

■健康運動教室「ゆるヨガ～はじめてのヨガ～」
（平成29年10月29日(日)10:30～12:00、東京・世田谷キャンパス 3B03体育館）
【受講者数】 17名
【実施担当者】
金附 明花（日本体育大学卒業
全米ヨガアライアンス RYT200資格保有）

■体育館まつり
（平成29年10月29日(日)、尾山台地域体育館運営協議会）
【実施担当者】
学友会ダブルダッチサークル（5名）

11月

■体力測定
（平成29年11月3日(金)～5日(日) 横浜・健志台キャンパス 第3体育館10:00～15:30 5日は14:30まで）
【参加者数】 1,109名
【実施担当者】
中里 浩一（保健医療学部 教授）
岡本 孝信（体育学部 教授）
須永 美歌子（児童スポーツ教育学部 教授）
菊池 直樹（体育学部 助教）
山田 満月（体育学部 助教）
重田 唯子（体育学部 助手）
学生アルバイト

■「これもまた日体大の力！脳トレ」
（平成29年11月11日(土) 13:00～16:00、東京・世田谷キャンパス 5B03体操場）
【受講者数】4名
【実施担当者】
天野 勝弘（ｽﾎﾟｰﾂﾊﾞｲｵﾒｶﾆｸｽ研究室 非常勤講師）
渡邊 奈々（埼玉純真短期大学 非常勤講師）

■保育園における活動補助
（平成29年11月14日(火)、私立駒沢どろんこ保育園）
【実施担当者】
児童スポーツ教育学部学生（10名）

■大クリーン大作戦 第2弾 in 渋谷
（平成29年11月18日(土)、渋谷駅周辺～美竹公園内）
【実施担当者】
クラブ・サークル（143名/17団体）

■公開講座「子どものこころ、親のこころ―家庭や学校における気になる子どもの理解と支援―」
（平成29年11月19日(日)13：00～14：30、東京・世田谷キャンパス教育研究棟２F　2206教室）
【受講者数】20名
【講義内容】
いじめ問題の理解と対応
藤田 主一（スポーツ文化学部 教授）
不登校の理解と対応
齋藤 雅英（スポーツ文化学部 教授）
発達障害の理解と支援
宇部 弘子（児童スポーツ教育学部 准教授）

■古着・古布回収
（平成29年11月19日(日)、深沢地区ごみ減量･ﾘｻｲｸﾙ推進委員会）
【実施担当者】
深沢寮生（10名）

■保育園における活動補助
（平成29年11月22日(水)、世田谷区立深沢保育園）
【実施担当者】
児童スポーツ教育学部学生（43名）

■保育園における活動補助
（平成29年11月24日(金)、世田谷区立深沢保育園）
【実施担当者】
児童スポーツ教育学部学生（50名）

■ゴミゼロデー、桜並木清掃
（平成29年11月25日(土)、桜新町親和会地域内桜並木）
【実施担当者】深沢寮生、和泉寮生（5名）

■健康運動教室「らくらくエアロビクス運動教室」
（平成29年11月26日(日)10:30～12:00、東京・世田谷キャンパス スポーツ棟BF 5B03体操場）
【受講者数】26名
【実施担当者】
非常勤講師　三矢 八千代　大津 桂子(体力学研究室)
【補助】
学友会エアロビック同好会

12月

■健康運動教室・指導講習会「筋トレのすゝめ: 初心者・女性向け」
（平成29年12月2日(土) 15:00～17:00、東京・世田谷キャンパス スポーツ・トレーニングセンター）
【受講者数】8名
【実施担当者】
菊池 直樹（トレーニング研究室 助教）
小畑 直之（トレーニング研究室 助教）
【補助】
トレーニング研究室学生

■第4回クリーン大作戦
（平成29年12月2日(土)、東京・世田谷キャンパス横浜・健志台キャンパス）
【実施担当者】
クラブ・サークル（103名/25団体）

■環境美化作業
（平成29年12月3日(日)、グリーンヒル鴨志田西団地）
【実施担当者】
本学教職員（38名）

■健康をテーマとした６大学連携講座
（平成29年12月3日(日)14:40～16:00、青葉区役所）
【実施担当者】
伊藤 譲（保健医療学部 教授）
【講義内容】
「成長期のスポーツ障害～予防とコンディショニング～」

■保育園における活動補助
（平成29年12月5日(火)、私立駒沢どろんこ保育園）
【実施担当者】
児童スポーツ教育学部学生（10名）

■日体大スポーツフェスタ2017
（平成29年12月10日(日) 9:00～13:00、世田谷キャンパス スポーツ棟 メインアリーナ）
【参加者数】207名
【実施担当者】計70名

・スポーツ経営管理学ゼミ（9名）
・学友会ボクシング部（9名）
・学友会トランポリン競技部（8名）
・学友会近代五種競技部（3名）
・学友会アルティメット・チーム（14名）
・学友会セパタクロー部（13名）
・生涯スポーツ学研究室ゼミ（5名）
・ソングリーディング有志学生（6名）
・人材バンク（3名）

■保育園における活動補助
（平成29年12月13日(水)、私立用賀なのはな保育園）
【実施担当者】
児童スポーツ教育学部学生（49名）

■健康運動教室「らくらくエアロビクス運動教室」
（平成29年12月16日(土)10:30～12:00、東京・世田谷キャンパス スポーツ棟BF 5B03体操場）
【受講者数】22名
【実施担当者】
非常勤講師　三矢 八千代　大津 桂子(体力学研究室)
【補助】
学友会エアロビック同好会

■イヤーエンドマラソンin昭和記念公園
（平成29年12月28日(木)･29日(金)、一般社団法人シャイニング）
【実施担当者】
人材バンク（2名）

通年　H29.4月～H29.12月

■世田谷区教育委員会
世田谷区立小学校 川場移動教室補助員
【実施担当者】
人材バンク（延べ6名）

■学習支援ボランティア
（平成29年10月～12月、神奈川県立田奈高等学校）
【実施担当者】
人材バンク（1名）

■目黒区教育委員会
目黒区学校自然宿泊体験教室引率指導員
【実施担当者】
人材バンク（延べ19名）

■世田谷区教育委員会 世田谷区教育活動支援事業
（世田谷区内小・中学校）
【実施担当者】
人材バンク（延べ74名）

■東京都教育相談センター
学生アドバイザリースタッフ（不登校等児童・生徒の話し相手、遊び相手）（東京都内学校または家庭）
【実施担当者】
人材バンク（1名）

■ふれあい活動ボランティア
（平成29年1月～12月、社会福祉法人 泉会 泉の家）

【実施担当者】
人材バンク（1名）

■横浜市平成29年度よこはま教育実践ボランティア
【実施担当者】
人材バンク（3名）

■中央区子どもの得意スポーツ発見事業
（平成29年1月～12月、中央区立総合スポーツセンター主競技場ほか）
【実施担当者】
久保　健（児童スポーツ教育学部 教授）
小柳　将吾（スポーツ文化学部 助教）
瀬戸口 洋平(児童スポーツ教育学部 助教)
南部 さおり（スポーツ文化学部　准教授）
【補助】
スポーツ教育学研究室学生
児童スポーツ教育研究Ⅰ受講学生（延べ172名）

■平成29年度神奈川県立学校部活動支援学生ボランティア
（神奈川県立学校 高校・養護学校等）
【実施担当者】
人材バンク（1名）

■健康体力づくり
（平成29年10月～12月、横浜市立桂小学校）
【実施担当者】
人材バンク（1名）

■世田谷区立小ミニバスケットボールクラブ
「中丸ダンクス」のコーチ
平成29年4月～平成30年3月（通年）
【実施担当者】
人材バンク（1名）

平成 30 年 4 月 23 日
第 1 回地域社会連携本部会議
資料 2-1

学校法人日本体育大学

日本体育大学社会貢献推進機構

自己点検・評価報告書

（平成 29 年）

平成 30 年 2 月 8 日

（内容 平成 29 年 1 月～12 月）

日本体育大学社会貢献推進機構
スポーツプロモーション・オフィス

日本体育大学の概要

設置者	学校法人　日本体育大学
理事長	松浪　健四郎
学　長	具志堅　幸司
体育学部長	松井　幸嗣
スポーツ文化学部長	八木沢　誠
児童スポーツ教育学部長	久保　健
保健医療学部長	平沼　憲治
開設年月	昭和 24 年 4 月
所在地	東京・世田谷キャンパス　東京都世田谷区深沢　7-1-1 横浜・健志台キャンパス　神奈川県横浜市青葉区鴨志田町　1221-1

設置学部・学科及びコース並びに入学定員

学部	学科・コース	入学定員	収容定員
体育学部	体育学科	750	3, 000
	健康学科	195	780
	武道学科(募集停止H29.4)	120	480
	社会体育学科	195	780
		合計 1, 260	5, 040
		(平成 29 年 5 月 1 日現在　4, 920)	
スポーツ文化学部	武道教育学科	100	400
(平成 29 年 4 月開設)	スポーツ国際学科	100	400
		合計　200	800
		(平成 29 年 5 月 1 日現在　200)	
児童スポーツ教育学部			
	児童スポーツ教育学科		
	児童スポーツ教育コース	150	600
	幼児教育保育コース	50	200
		合計　200	800
保健医療学部	整復医療学科	90	360
	救急医療学科	80	320
		合計　170	680
		総合計 1, 830	7, 320
		(平成 29 年 5 月 1 日現在　6, 600)	

平成 27 年 8 月 21 日
運営戦略会議決定

評価指標

基準	テーマ	評価の観点	
健康で豊かな生涯スポーツ社会の構築	1　学内組織の整備と事業方針及び事業計画の明確化	①	地域社会への貢献活動を推進する学内組織の構築と実施体制の整備
		②	建学の精神に基づく事業方針・計画の明確化と学内における共通認識の醸成に向けた取り組みの推進
	2　地域との連携体制の構築及び地域志向の教育課程編成	①	貢献活動に関する実効性のある地域社会との連携体制の構築
		②	地域志向の人材育成と貢献活動に繋がる教育課程の編成
	3　地域の課題解決に向けた効果的なプログラムの実施と貢献活動の推進	①	地域課題の発掘・解消に資する調査・研究を促進し、課題解決に繋がる実効性のあるプログラムを開発
		②	人的・物的資源を活かした公開講座等の実施
		③	ボランティア活動の推進と人材育成への取り組みの充実
		④	地域の美化、防災力の向上を図る取り組みの推進

【ポイント】

1-①　地域社会への貢献活動を推進する学内組織の構築と実施体制の整備

学則・組織規程等に社会貢献を主たる任務とした組織が明確に規定されているか。また、実施体制としての組織が整備されているか。

1-②　建学の精神に基づく事業方針・計画の明確化と学内における共通認識の確立

建学の精神、ミッション・ヴィジョンを踏まえた方針であるか。また、その方針を踏まえた計画が立案されているか。加えて、それらを学生・教職員に周知徹底するための方策が施されているか。

2-①　貢献活動に関する実効性のある地域社会との連携体制の構築

キャンパスが立地する地域の自治体等との連携関係を構築できているか。また、大学と地域が連携して事業を推進する仕組みが備わっているか。

2-②　地域志向の人材育成と貢献活動に繋がる教育課程の編成

キャンパスが立地する地域の体育・スポーツに関する課題等を学生が学習するとともに、その課題解決に資する取り組みを推進することの意義を理解させる教科目が設定されているか。また、その学習を通じた学生の理解度及び貢献活動に対する意識の向上が図れているか。さらに、それらを検証、改善する仕組みが整っているか。

3-①　地域課題の発掘・解消に資する調査・研究を促進し、課題解決に繋がる実効性のあるプログラムを開発

東京都世田谷区及び青葉区を中心とした横浜市が抱える体育・スポーツに関する課題の抽出に努めるとともに、課題解決に資する研究活動を促進して健康の維持増進、スポーツ文化の向上、生涯スポーツの進展等を意図したプログラムを検討、具体性のある企画を立案して実行しているか。

3-②　人的・物的資源を活かした公開講座等の実施

大学が有する人材等の資源を活用して、地域課題解決に資する公開講座等を開講しているか。

3-③　ボランティア活動の推進と人材育成への取り組みの充実

地域社会からのボランティア要請等に積極的に対応するとともに、それらの活動と教育課程の連動を図った人材育成に繋げているか。

3-④　地域の美化、防災力の向上を図る取り組みの推進

地域社会と連携し、地域の美化に努めるとともに、地域住民を巻き込んだ防災力の向上に努めているか。

○ 自己点検・評価

□ 評価基準

健康で豊かな生涯スポーツ社会の構築

〈テーマ１ 学内組織の整備と事業方針及び事業計画の明確化〉

評価の観点

（1） 地域社会への貢献活動を推進する学内組織の構築と実施体制の整備

（2） 建学の精神に基づく事業方針・計画の明確化と学内における共通認識の醸成に向けた取り組みの推進

（評価のポイント）

1－（1） 組織規程等に社会貢献を主たる任務とした組織が明確に規定されているか。また、実施体制としての組織が整備されているか。

1－（2） 建学の精神、ミッション・ヴィジョンを踏まえた方針であるか。また、その方針を踏まえた計画が立案されているか。加えて、それらを学生・教職員に周知徹底するための方策が施されているか。

【事実の説明】

（1） 組織規程第 13 条に規定された日本体育大学社会貢献推進機構は、これまで、学長を機構長、企画・管理・運営担当の副学長を副機構長として、外部団体等との連携を促進する連携推進担当及び教育充実・人材育成を図る教育開発担当並びに研究活動を展開させる研究開発担当、さらには四学部長及び両キャンパスのマネージャー並びに事務担当のスポーツプロモーション・オフィスのスタッフを構成員とした組織構成としていたが、全学的な活動を展開していることから、大学院研究科長及び平成 30 年 4 月開設のスポーツマネジメント学部長、さらには附置機関長及び事務局長等を構成員に加える規程改正を平成 30 年 4 月 1 日施行として行った。また、運営戦略会議の構成員としては、必要に応じて大学院研究科長あるいは附置機関等の関係者を機構長が招集することとている。

なお、運営戦略会議及び地域社会連携本部会議において方針等を決定するにあたり、基本的な考え方や具体案を検討するために、「地域教育活動委員会」、「地域研究活動委員会」、「地域社会貢献活動委員会」の三つの分野別委員会を設置して運営している。

〔エビデンス集・資料集＝1-(1)-1、1-(1)-2、1-(1)-3、1-(1)-4〕

（2） 建学の精神を踏まえた事業方針を「地域（東京都世田谷区、青葉区を中心とした横浜市）の課題及びニーズの抽出を情報収集や研究活動を通じて積極的に行い、これらの課題の改善・解消あるいはニーズに応える各種の取り組みの開発に努め、全学的に対応している。加えて、これらの活動を通じた質の高い人材育成を実現するため本学独自の資格制度（CSC＝Community Sport Coordinator）の開発・創設を教育改革によって具現化し、地域・社会貢献活動の活性化を継続的に推進するとともに、全学的な周知徹底はもちろんのこと、対社会に向けた情報発信に努めている。将来的には、本学が有する校友会組織と連携し、事業を全国的に展開するとともに、卒業生が活躍できる場の創出を実現する。」と定め、これに沿った事業計画を決定した。

本学のホームページ上にこれを公開、機関誌「T-Lion Voice Home 第 5 号」にも掲載し

て周知を図っている。また、事務職員については、事務連絡協議会の際に各種の取組と合せて周知をしている。学生については、6 月 5･6 日、6 月 8･9 日に実施された教職支援センター主催の教員免許取得希望者ガイダンスにおいて社会貢献に関する取り組みの解説等を行い、人材バンクへの参画を促した。教員については、教授会報告や NICS＠Web への掲示等により周知を図っている。
〔エビデンス集・資料集＝1-(2)-1、1-(2)-2、1-(2)-3、1-(2)-4〕

表 1　日本体育大学社会貢献推進機構構成員（平成 29 年度）

担　当	氏　名	役　職　等	備　考
機構長	具志堅　幸司	学長	体育学部教授
副機構長	松井　幸嗣	副学長（企画・管理・運営担当）	体育学部教授
連携推進担当	小林　正利	学生支援ｾﾝﾀｰ副ｾﾝﾀｰ長	体育学部教授
教育開発担当	三宅　良輔	学生支援ｾﾝﾀｰ長	体育学部教授
研究開発担当	野井　真吾	総合ｽﾎﾟｰﾂ科学研究ｾﾝﾀｰ長	体育学部教授
体育学部長	（松井　幸嗣）		体育学部教授 副学長（企画・管理・運営）
スポーツ文化学部	八木沢　誠		スポーツ文化学部教授
児童ｽﾎﾟｰﾂ教育学部長	久保　　健		児童ｽﾎﾟｰﾂ教育学部教授
保健医療学部長	平沼　憲治		保健医療学部教授
ﾍﾞｰｽﾏﾈｰｼﾞｬｰ（世）	波多腰　克晃		体育学部教授
ﾍﾞｰｽﾏﾈｰｼﾞｬｰ（健）	津山　　薫		体育学部教授
ｽﾎﾟｰﾂﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝ・ｵﾌｨｽ	白旗　和也	オフィスディレクター	体育学部教授
〃	大髙　秀二	アシスタントオフィスディレクター	事務局次長
〃	増岡　啓彰	アシスタントオフィスディレクター	学生支援センター健志台事務室 事務長
〃	塚田　直彦	主任	
〃	岡田　順治		学生支援センター健志台事務室
〃	大久保　瞳		

表2　運営戦略会議構成員（平成 29 年度）

役職等	氏　名	備　考
機構長	具志堅　幸司	学長
副機構長	松井　幸嗣	副学長（企画・管理・運営）
副学長（教学・学生生活）	笠井　里津子	
学部長	（松井　幸嗣）	体育学部
	八木沢　誠	スポーツ文化学部
	久保　　健	児童スポーツ教育学部
	平沼　憲治	保健医療学部
連携推進担当	小林　正利	学生支援センター副センター長
教育開発担当	三宅　良輔	学生支援センター長
研究開発担当	野井　真吾	総合スポーツ科学研究センター長
ベースマネージャー	波多腰　克晃	東京・世田谷キャンパス
	津山　　薫	横浜・健志台キャンパス
教務委員会委員長	（笠井　里津子）	副学長（教学・学生生活）

教養教育委員会委員長	林　忠男	教養・教職科長
大学事務局長	藤野　雅博	
オフィスディレクター	白旗　和也	
その他機構長が必要と認めた者	後藤　彰	教職支援センター長
	大高　秀二	事務局次長
	西本　幸嗣	大学改革推進室長
	増岡　啓彰	学生支援センター健志台事務室事務長

表3　分野別委員会構成員（平成 29 年度）

表3－1　地域教育活動委員会（※＝委員長）

氏　名	学部	研究室（領域）名	備　考
※　後藤　彰	体育	教職教育	教職支援センター長
横山　順一	体育	社会福祉学	
波多腰　克晃	体育	スポーツ哲学	ベースマネージャー（世田谷）
荻　浩　三	体育	スポーツ史	アドミッションセンター長
安達　瑞保	児スポ	栄養教育学	
齋藤　雅英	スポ文化	教育心理学	
樋口　毅史	保健医療	運動器外傷学	
鈴木　健介	保健医療	医療英語	
岡本　美和子	児スポ	母子保健	児童スポーツ教育学科長
近藤　智靖	児スポ	体育科教育	教職支援センター副センター長
惠　元			IR 室長補佐
塚田　直彦			ｽﾎﾟｰﾂﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝ・ｵﾌｨｽ　主任

表3－2　地域研究活動委員会（※＝委員長）

氏　名	学部	研究室（領域）名	備　考
依田　充代	体育	スポーツ社会学	社会体育学科長
野村　一路	体育	生涯スポーツ学	
※　野井　真吾	体育	学校保健学	総合スポーツ科学研究センター長、研究開発担当
伊藤　雅充	体育	コーチ学	
須永　美歌子	児スポ	運動生理学	
関根　正美	体育	スポーツ哲学	ｵﾘﾝﾋﾟｯｸｽﾎﾟｰﾂ文化研究所長
田中　信行	体育	アダプテッドスポーツ学	
中里　浩一	保健医療	運動生理学	体育研究所長
岡出　美則	スポ文化	スポーツ教育学	
新里　知佳野	スポ文化	剣道	
石井　隆憲	保健医療	スポーツ人類学	大学院研究科長
中嶋　基仁			総合ｽﾎﾟｰﾂ科学研究ｾﾝﾀｰ事務長
塚田　直彦			ｽﾎﾟｰﾂﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝ・ｵﾌｨｽ　主任

表3－3　地域社会貢献活動委員会（※＝委員長）

氏　名	学部	研究室（領域）名	備　考
佐野　昌行	体育	スポーツ経営管理学	
大石　健二	体育	測定評価学	

根本　研	体育	ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ	寮監長
三宅　良輔	体育	体操	学生支援ｾﾝﾀｰ長、教育開発担当
津山　薫	体育	発育発達学	ベースマネージャー（健志台）
亀山　有希	児スポ	スポーツ社会学	
石井　隆士	体育	陸上競技	学友会会長
伊藤由美子	児スポ	体操	
成田　和穂	保健医療	スポーツ医学（内科系）	
津田　博子	ｽﾎﾟ文化	ダンス・伝統芸能	
※　白旗　和也	体育	教職教育	ｽﾎﾟｰﾂﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝ・ｵﾌｨｽ　ｵﾌｨｽﾃﾞｨﾚｸﾀｰ
小林　正利	体育	健康教育学	学生支援ｾﾝﾀｰ副ｾﾝﾀｰ長、連携推進担当
南部　さおり	ｽﾎﾟ文化	ｽﾎﾟｰﾂ危機管理学	
大久保　瞳			ｽﾎﾟｰﾂﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝ・ｵﾌｨｽ　ｵﾌｨｽｽﾀｯﾌ

【エビデンス集・資料編】

1．1－(1)－1　学校法人日本体育大学組織規程（抄）
2．1－(1)－2　日本体育大学社会貢献推進機構規程(平成 30 年 4 月 1 日施行)
3．1－(1)－3　運営戦略会議の議事要旨
4．1－(1)－4　地域社会連携本部会議の議事要旨
5．1－(2)－1　平成 29 年度事業方針及び事業計画
6．1－(2)－2　ライフガイダンスマップ及びスタートブック 2017
7．1－(2)－3　日体大の地域社会貢献（NICS＠Web）

【自己評価】

テーマ1は概ね満たしている。
ただし、現時点において分野別委員会が未開催となっている。

【改善・向上方策】

組織構成について、各学部を網羅し、大学院研究科や多様な附置機関、事務局等を組み入れる機構規程の改正を行ったが、今後は、教員や運動部等あるいは学生個々による活動だけでなく、分野別委員会の検討を経て、大学として取り組みの幅を拡大する工夫が求められる。

対学生については、印刷物等の充実が図られ、教員資格取得希望者ガイダンスの際に社会貢献活動に関する解説（参加者 624 名）を行うなどの工夫が見られる。しかし、現時点での人材バンク登録者数は 419 名（昨年度 432 名）となっており、昨年度に比して現時点でマイナス 13 名となっている。登録者数を増やすことができない原因を解明するとともに、社会貢献活動の事例紹介等の機会をさらに積極的に設ける等、学生の人材バンクへの登録数増加を図る取り組みを充実させなければならない。なお、平成 30 年度から 5 学部となることに伴い、建学の精神及びミッション・ヴィジョンの見直しが行われ、12 月 21 日(木)の理事会において決定したことを踏まえ、平成 30 年度の事業方針・計画については、新たな建学の精神及びミッション・ヴィジョンに従って定めるよう留意する必要がある。

〈テーマ 2　地域との連携体制の構築及び地域志向の教育課程編成〉

評価の観点

（1）　貢献活動に関する実効性のある地域社会との連携体制の構築

（2） 地域志向の人材育成と貢献活動に繋がる教育課程の編成

（評価のポイント）

2－（1） キャンパスが立地する地域の自治体等との連携関係を構築できているか。また、大学と地域が連携して事業を推進する仕組みが備わっているか。

2－（2） キャンパスが立地する地域の体育・スポーツに関する課題等を学生が学習するとともに、その課題解決に資する取り組みを推進することの意義を理解させる教科目が設定されているか。また、その学習を通じた学生の理解度及び貢献活動に対する意識の向上が図れているか。さらに、それらを検証、改善する仕組みが整っているか。

【事実の説明】

（1） 東京都世田谷区（スポーツ推進担当部所管）、公益財団法人世田谷区スポーツ振興財団（事務局所管）、横浜市市民局（スポーツ振興部所管）、公益財団法人横浜市体育協会（地域スポーツ振興部所管）、横浜市青葉区（総務部区政推進課所管）と連携協定を締結し、各団体から地域社会連携本部会議の構成員が配置され、年 2 回会議を開催して事業方針・計画の検討・策定等を行っている。また、各種の取り組みを展開するにあたり、広報等の協力体制を整えるなど、綿密な連携体制を構築している。

〔エビデンス集・資料集＝2-（1）-1、2-（1）-2〕

（2） 地域志向の授業科目については、現状では、三学部共通で「日体大の歴史」が設定されているに止まっている。平成 29 年 4 月に設置されたスポーツ文化学部では、地域志向科目として「地域社会とスポーツ」「ボランティア実習」「ボランティア演習」を設定し、新たな資格制度への対応を可能としている。

7 月 19 日の教授会において、体育学部及びスポーツ文化学部並びに児童スポーツ教育学部では、CSC（Community Sport Coordinator）資格制度の創設について、まず、4 つの資格（運動部活動コーディネーター、小学校体育活動コーディネーター、幼児運動遊びコーディネーター、障がい者スポーツコーディネーター）についてスタートさせ、前述の 3 科目の設定を教授会において決定した。今後、カリキュラムの見直し（2019 年度改訂予定）の検討を加速させることになる。なお、保健医療学部については、AT（アスレティックトレーナー）資格をカリキュラム内で取得可能とする予定で、CSC 資格制度については、当分の間、見送ることとなっている。

〔エビデンス集・資料集＝2-（2）-1〕

表4 地域社会連携本部構成員（平成 29 年度） （敬称略）

役職等	氏 名	備 考
世田谷区スポーツ推進担当部スポーツ推進課長	渡邉 謙吉	
公益財団法人世田谷区スポーツ振興財団事務局次長	中潟 信彦	
横浜市市民局スポーツ振興部スポーツ振興課長	守屋喜代司	
公益財団法人横浜市体育協会スポーツ振興部長	森田 尚隆	
横浜市青葉区総務部区政推進課長	鈴木 康介	
日本体育大学社会貢献推進機構連携推進担当	小林 正利	学生支援ｾﾝﾀｰ副ｾﾝﾀｰ長
日本体育大学社会貢献推進機構教育開発担当	三宅 良輔	学生支援ｾﾝﾀｰ長
日本体育大学社会貢献推進機構研究開発担当	野井 真吾	総合ｽﾎﾟｰﾂ科学研究ｾﾝﾀｰ長
ｽﾎﾟｰﾂﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝ・ｵﾌｨｽｵﾌｨｽﾃﾞｨﾚｸﾀｰ	白旗 和也	体育学部教授

※ 地域教育活動委員会については前述。（表3－1）

【エビデンス集・資料編】
1．2－(1)－1　地域社会連携本部規則
2．2－(1)－2　協定書(写)
3．2－(2)－1　教授会決定内容(7 月 19 日)

【自己評価】
テーマ2は概ね満たしている。CSC 資格制度を包含した新たな教育課程については、早急に検討を進め、2019 年度からスタート予定である。

【改善・向上方策】
地域社会との連携体制が構築され、効果的な企画の展開に結びつけている。地域志向の人材育成と教育課程編成については、まず、4 つの資格を創設して進めることが決定(7 月 19 日開催の各学部教授会)した。今後は、新たに設置されたプロジェクトで検討を深め、できるだけ早期に事業を展開することが望まれる。と同時に、全学的な取組として地域貢献を通じて有為な人材育成を合せて実現するよう進めることが急務である。なお、地域社会貢献に関連したセミナーやワークショップ等さらを積極的に開催して、全学的な地域志向の意識醸成を深化させたい。

表5　CSC 資格制度創設に係る検討プロジェクト

氏　名	資　格	所　属　等	備　考
後藤　彰	教　授	スポーツ文化学部(地域教育活動委員会)	ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄﾘｰﾀﾞｰ、教職支援ｾﾝﾀｰ長
鈴川　一宏	教　授	体育学部(教務委員会)	
依田　充代	教　授	体育学部(教授委員会、地域研究活動委員会) ※平成 30 年 4 月ｽﾎﾟｰﾂﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ学部所属予定	
金本　良通	教　授	児童ｽﾎﾟｰﾂ教育学部(教務委員会)	
岡本美和子	教　授	児童ｽﾎﾟｰﾂ教育学部(教務委員会、地域教育活動委員会)	児童ｽﾎﾟｰﾂ教育学科長
荻　浩三	教　授	体育学部(地域教育活動委員会)	ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝｾﾝﾀｰ長
伊藤　雅充	教　授	体育学部(地域研究活動委員会)	ｺｰﾁﾝｸﾞｴｸｾﾚﾝｽｾﾝﾀｰ長
林　忠男	教　授	体育学部(教務委員会)	教養教職科長
波多腰克晃	准教授	ｽﾎﾟｰﾂ文化学部(地域教育活動委員会)	ﾍﾞｰｽﾏﾈｰｼﾞｬｰ(世田谷)
近藤　智靖	教　授	児童ｽﾎﾟｰﾂ教育学部(地域教育活動委員会)	教職支援ｾﾝﾀｰ副ｾﾝﾀｰ長
田中　信行	教　授	体育学部(地域研究活動委員会)	
佐野　昌行	准教授	体育学部(地域社会貢献活動委員会) ※平成 30 年 4 月ｽﾎﾟｰﾂﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ学部所属予定	ｱｽﾚﾃｨｯｸﾃﾞﾊﾟｰﾄﾒﾝﾄ長補佐
白旗　和也	教　授	体育学部(地域社会貢献活動委員会)	SPOｵﾌｨｽﾃﾞｨﾚｸﾀｰ
三宅　良輔	教　授	体育学部(教務委員会、地域社会貢献活動委員会)	学生支援ｾﾝﾀｰ長
菊名　博之	主事 1 級	学生支援ｾﾝﾀｰ学習支援部門(教務委員会)	部門長、事務長
佐藤　友美	主事 2 級	課程・評価課(教務委員会)	課長
惠　元	主事 1 級	IR室(地域教育活動委員会)	室長補佐
塚田　直彦	主事補	スポーツプロモーション・オフィス	主任、事務担当
小林　慶	主事補	学生支援ｾﾝﾀｰ学習支援部門	事務担当
大久保　瞳	書　記	スポーツプロモーション・オフィス	事務担当

〈テーマ 3　地域の課題解決に向けた効果的なプログラムの実施と貢献活動の推進〉

評価の観点

（1）　地域課題の発掘・解消に資する調査・研究を促進し、課題解決に繋がる実効性のあるプログラムを開発

（2）　人的・物的資源を活かした公開講座等の実施

（3）　ボランティア活動の推進と人材育成への取り組みの充実

（4）　地域の美化、防災力の向上を図る取り組みの推進

（評価のポイント）

3－（1）　東京都世田谷区及び青葉区を中心とした横浜市が抱える体育・スポーツに関する課題の抽出に努めるとともに、課題解決に資する研究活動を促進して健康の維持増進、競技力の向上、スポーツ文化の向上、生涯スポーツの進展等を意図したプログラムを検討、具体性のある企画を立案して実行しているか。

3－（2）　大学が有する人材等の資源を活用して、地域課題解決に資する公開講座等を開講しているか。

3－（3）　地域社会からのボランティア要請等に積極的に対応するとともに、それらの活動を教育課程との連動を図った人材育成に繋げているか。

3－（4）　地域社会と連携し、地域の美化に努めるとともに、地域住民を巻き込んだ防災力の向上に努めているか。

【事実の説明】

（1）　研究活動に関しては、地域（世田谷区及び青葉区を中心とした横浜市）の課題抽出及び課題解消に向けた取り組みの開発を主な目的として次の 5 件の研究テーマ（予算額は各 50 万円）に取り組むこととした。

①　地域住民の体力向上・健康増進

②　地域住民のスポーツへの関心の向上

③　地域障害者スポーツ機会の向上と指導者支援

④　地域スポーツ指導者の意識・技術向上

⑤　学校体育の充実

〔エビデンス集・資料集＝3-（1）-1、3-（1）-2〕

（2）　公開講座を7件、スポーツ教室 2 件、健康運動教室14 件、指導講習会を 6 件、その他 2 件を表 6 のとおり開催した。この他、例年開催している体力測定を横浜・健志台キャンパスにおいて日体フェスティバル（11 月 3 日～5 日）と同時開催で行い 1, 109 名の参加者があった。また、東京・世田谷キャンパスでは、その2週間前（10 月 21 日・22 日）に実施し 211 名の参加者があった。なお、昨年同様、小学生を対象とした日体大スポーツフェスタを 12 月 10 日（日）に開催。207 名の参加者があった。

〔エビデンス集・資料集＝3-（1）-1、3-（2）-1、3-（2）-2〕

（3）　ボランティア対応の活性化・迅速化を図るために構築した人材バンクについては、現在（2017 年 12 月 27 日現在）419 名（前年比－13 名）の学生が登録を済ませ、1 月から表 7 に記載したボランティア活動への対応を行っている。また、各方面からの要望・依頼に基づき、表 8 のとおり体育・スポーツ活動への支援、表 9 のとおり施設開放を実施している。

〔エビデンス集・資料集＝3-(1)-1、3-(3)-1、3-(3)-2、3-(3)-3、3-(3)-4、3-(3)-5〕

(4) 美化運動については、東京・世田谷、横浜・健志台の両キャンパス周辺で 10 回実施しており、キャンパス周辺地域以外でも、渋谷や海浜実習の実施場所である千葉県の岩井海岸においても清掃活動を行った。また、防災訓練については、昨年に引き続き横浜・健志台キャンパスにおいて実施し、253 名の参加があった。東京・世田谷では地域合同総合消防訓練に協力した。
〔エビデンス集・資料集＝3-(1)-1〕

表6 公開講座・スポーツ教室等の実施状況(1 月～12 月)

No.	実施日	種　別	実施内容	参加人数
1	平成 29 年 2 月 11 日(土)	健康運動教室	膝痛さようなら体操教室(健志台)	21 名
2	平成 29 年 2 月 11 日(土)	スポーツ教室	ヤングウインターキャンプ・バレーボール(世田谷)	44 名
3	平成 29 年 1 月～3 月	スポーツ教室	柔道教室(健志台) 計 12 回	25 名
4	平成 29 年 5 月 20 日(土)	健康運動教室	らくらくエアロビクス運動教室(世田谷)	20 名
5	平成 29 年 5 月 27 日(土)	健康運動教室	らくらくエアロビクス運動教室(健志台)	13 名
6	平成 29 年 6 月 3 日(土)	指導講習会	救命蘇生法講習会(世田谷)	15 名
7	平成 29 年 6 月 11 日(日)	健康運動教室	ゆるヨガ～はじめてのヨガ～(世田谷)	16 名
8	平成 29 年 6 月 11 日(日)	指導講習会	筋トレのすすめ～筋トレ初心者のためのダンベル、バーベルを使ったエクササイズ(世田谷)	18 名
9	平成 29 年 6 月 24 日(土)	健康運動教室	らくらくエアロビクス運動教室(世田谷)	22 名
10	平成 29 年 6 月 25 日(日)	健康運動教室	ゆるヨガ～はじめてのヨガ～(世田谷)	19 名
11	平成 29 年 7 月 1 日(土)	公開講座	女性の健康とスポーツ傷害・事故の予防(健志台)	184 名
12	平成 29 年 7 月 2 日(日)	健康運動教室	肩痛さようなら体操教室(健志台)	10 名
13	平成 29 年 7 月 8 日(土)	その他	からだのかたちと立位・歩行動作をはかる(健志台)	37 名
14	平成 29 年 7 月 8 日(土)	指導講習会	水辺の安全教室(世田谷)	10 名
15	平成 29 年 7 月 15 日(土)	その他	からだのかたちと立位・歩行動作をはかる(健志台)	33 名
16	平成 29 年 7 月 22 日(土)	公開講座	第 26 回幼児教育講座(世田谷)	40 名
17	平成 29 年 9 月 2 日(土)	公開講座	これもまた日体大の力！脳トレ(世田谷)	5 名
18	平成 29 年 9 月 16 日(土)	健康運動教室	らくらくエアロビクス運動教室(世田谷)	20 名
19	平成 29 年 9 月 17 日(日)	指導講習会	救命蘇生法講習会(健志台)	51 名
20	平成 29 年 9 月 24 日(日)	指導講習会	筋トレのすすめ～トレーニング実践者向け-ベーシックエクササイズ、クイックリフトを極める-(世田谷)	18 名
21	平成 29 年 10 月 1 日(日)	健康運動教室	らくらくエアロビクス運動教室(世田谷)	21 名
22	平成 29 年 10 月 7 日(土)	公開講座	これもまた日体大の力！脳トレ(世田谷)	9 名
23	平成 29 年 10 月 15 日(日)	健康運動教室	ゆるヨガ～はじめてのヨガ～(世田谷)	17 名

24	平成 29 年 10 月 21 日(土)～22 日(日)	その他	日本体育大学体力測定(世田谷)	211 名
25	平成 29 年 10 月 28 日(土)	公開講座	これもまた日体大の力！脳トレ(世田谷)	5 名
26	平成 29 年 10 月 29 日(日)	健康運動教室	らくらくエアロビクス運動教室(健志台)	25 名
27	平成 29 年 10 月 29 日(日)	健康運動教室	ゆるヨガ～はじめてのヨガ～(世田谷)	17 名
28	平成 29 年 11 月 3 日(金)～5 日(日)	その他	日本体育大学体力測定(健志台)	1,109 名
29	平成 29 年 11 月 11 日(土)	公開講座	これもまた日体大の力！脳トレ(世田谷)	4 名
30	平成 29 年 11 月 19 日(日)	公開講座	子どものこころ、親のこころ ―家庭や学校における気になる子どもの理解と支援―	20 名
31	平成 29 年 11 月 26 日(日)	健康運動教室	らくらくエアロビクス運動教室(世田谷)	26 名
32	平成 29 年 12 月 2 日(土)	指導講習会	筋トレのすすめ～初心者・女性向け～ 筋トレの基本を学ぶ～(世田谷)	8 名
33	平成 29 年 12 月 10 日(日)	スポーツ教室	日体大スポーツフェスタ 2016(東京・世田谷)	207 名
34	平成 29 年 12 月 16 日(土)	健康運動教室	らくらくエアロビクス運動教室(世田谷)	22 名

表7　人材バンク等により対応したボランティア活動(1 月～12 月)

No.	実施日	依頼先・実施内容	対応学生等	派遣人数
1	平成 29 年 1 月 9 日	株式会社日テレイベンツ チャレスポ！TOKYO	人材バンク	4 名
2	平成 29 年 2 月 5 日	等々力保育園さくらんぼ組 クラス懇親会	時本久美子教授、保育研究サークル・幼児教育保育コース学生	6 名
3	平成 29 年 2 月 18 日	いずみ保育園父母会 餅つき大会	学友会相撲部	3 名
4	平成 29 年 3 月 28 日	中国青年公益事業交流団(宋慶齢基金会) 日体大施設視察	スポーツプロモーション・オフィス	1 名
6	平成 29 年 4 月 16 日	桜新町商店街 さくらまつり	深沢寮生 和泉寮生	20 名
7	平成 29 年 6 月 3 日	世田谷区立千歳中学校 学生生活支援員(運動会)	人材バンク	2 名
8	平成 29 年 7 月 30 日	等々力の家(老人ホーム) 平成 29 年度納涼祭	人材バンク	2 名
9	平成 29 年 8 月 5 日	社会福祉法人泉会　泉の家 販売会補助(せたがやふるさと区民まつり)	人材バンク	1 名
10	平成 29 年 10 月 22 日	世田谷区立深沢児童館 第 9 回こどものまちフェスティバル	深沢寮生	8 名
11	平成 29 年 5 月～10 月	世田谷区教育委員会 世田谷区立小学校　川場移動教室補助員	人材バンク	延べ 6 名
12	平成 29 年 10 月～12 月	神奈川県立田奈高等学校 学習支援ボランティア	人材バンク	1 名

13	平成 29 年 4 月～ 平成 29 年 12 月	目黒区教育委員会 目黒区立学校 自然宿泊体験教室引率指導員	人材バンク	19 名
14	平成 29 年 1 月～ 平成 30 年 3 月(通年)	世田谷区教育委員会 世田谷区教育活動支援事業	人材バンク	延べ 74 名
15	平成 29 年 4 月～ 平成 30 年 3 月(通年)	東京都教育相談センター 学生アドバイザリースタッフ	人材バンク	1 名
16	平成 29 年 4 月～ 平成 30 年 3 月(通年)	社会福祉法人泉会 泉の家 ボランティア	人材バンク	1 名
17	平成 29 年 4 月～ 平成 30 年 3 月(通年)	よこはま教育実践ボランティア 横浜市教育委員会 横浜市立学校	人材バンク	3 名

表8 体育・スポーツ活動への支援状況(1 月～12 月)

No.	実施日	依頼先・実施内容	対応学生等	派遣人数
1	平成 29 年 1 月 19 日	私立用賀なのはな保育園(日体大 3B03 体育館) 保育園における活動補助	児童スポーツ教育学部 幼児教育保育ｺｰｽ学生	49 名
2	平成 29 年 2 月 17 日	大田区立貝塚中学校 スポーツ学生と交流授業	学友会陸上部	4 名
3	平成 29 年 2 月 23 日	日本財団パラリンピックサポートセンター 「あすチャレ！運動会」モニター体験	学友会ハンドボール部	60 名
4	平成 29 年 3 月 27 日	中央区平成 28 年度スポーツ指導者養成 セミナー フォロー研修講師	冨田幸博教授	1 名
5	平成 29 年 4 月 9 日	フラワーネックレス青葉 2017 オープニングイベント	ダブルダッチサークル	5 名
6	平成 29 年 4 月 15 日	ハッピーテラス本八幡(発達障害児ｻｰﾋﾞｽ) ダブルダッチに挑戦しよう！	ダブルダッチサークル	5 名
7	平成 29 年 4 月 25 日	目黒区 平成 29 年度 部活動外部指導員等全体研修(春季)	南部さおり准教授	1 名
8	平成 29 年 4 月 28 日	立川市立第一小学校平成 29 年度立川市公立 学校体育実技研究会における補助等	教職教育研究室 ゼミ学生	1 名
9	平成 29 年 5 月 22 日	世田谷区立深沢保育園(日体大ガレリア) 保育園における活動補助	児童スポーツ教育学部 幼児教育保育ｺｰｽ学生	47 名
10	平成 29 年 5 月 26 日	横浜市立日野中央高等特別支援学校 生涯スポーツ体験授業	ダンス部 体操部	10 名
11	平成 29 年 5 月 29 日	世田谷区立深沢保育園(日体大ガレリア) 保育園における活動補助	児童スポーツ教育学部 幼児教育保育ｺｰｽ学生	48 名
12	平成 29 年 5 月 28 日	横浜市心身障害児を守る会連盟 第 34 回横浜市ふれあいスポーツ大会	相撲部	8 名
13	平成 29 年 7 月 2 日	トラストガーデン等々力(老人ホーム) 新体操(ﾎﾟｰﾙ・ﾘﾎﾞﾝ)デモンストレーション	村田由香里助教 新体操部	3 名
14	平成 29 年 7 月 7 日	世田谷区立深沢保育園(日体大 3B03 体育館) 保育園における活動補助	児童スポーツ教育学部 幼児教育保育ｺｰｽ学生	47 名
15	平成 29 年 7 月 8 日	世田谷区議会 日本と台湾の中学生による バスケットボールの親善試合の審判	バスケットボール部	3 名

16	平成 29 年 7 月 13 日	世田谷区立駒沢保育園 駒沢わんぱく相撲	相撲部	2 名
17	平成 29 年 7 月 30 日	たけのこぐみ 親子でうたっておどろう	バレーボール部男子	10 名
18	平成 29 年 8 月 31 日	ｻｯｶｰﾜｰﾙﾄﾞｶｯﾌﾟ予選ﾊﾟﾌﾞﾘｯｸﾋﾞｭｰｲﾝｸﾞ 「ｱｼﾞｱ最終予選―ROAD TO RUSSIA―」	ｽﾎﾟｰﾂ経営管理学ゼミ 国語科教育ゼミ 体育管理研究ｻｰｸﾙ	17 名
19	平成 29 年 9 月 1 日	相模原市立麻溝こどもセンター 放課後子ども教室「ダブルダッチを楽しもう」	ダブルダッチサークル	5 名
20	平成 29 年 9 月 19 日 21 日	世田谷区立深沢保育園 運動会に向けてのなわとび	ダブルダッチサークル	10 名
21	平成 29 年 9 月 19 日	世田谷区立玉川保育園 ダブルダッチ披露、体験	ダブルダッチサークル	10 名
22	平成 29 年 9 月 26 日	目黒区 平成 29 年度 部活動外部指導員等全体研修（秋季）	伊藤雅充教授	1 名
23	平成 29 年 10 月 3 日	世田谷区教育委員会 世田谷区中学校陸上競技大会補助員	陸上競技部	17 名
24	平成 29 年 10 月 8 日	トラストガーデン等々力 日本の国技・相撲を見て楽しんで頂く	相撲部	3 名
25	平成 29 年 10 月 10 日	アルバルク東京 開幕戦ハーフタイムショー（新体操）	新体操部	19 名
26	平成 29 年 10 月 24 日～ 26 日	世田谷区教育委員会 世田谷区小学校連合運動会補助員	陸上競技部 児童スポーツ教育学部	79 名
27	平成 29 年 10 月 29 日	尾山台地域体育館運営協議会 体育館まつり	ダブルダッチサークル	5 名
28	平成 29 年 10 月中旬 ～平成 30 年 3 月中旬	横浜市立桂小学校 健康体力づくり	人材バンク	1 名
29	平成 29 年 11 月 14 日	私立駒沢どろんこ保育園（日体大 5105 体育館） 保育園における活動補助	児童スポーツ教育学部 幼児教育保育ｺｰｽ学生	10 名
30	平成 29 年 11 月 15 日	第 55 回体育研究発表実演会 地域住民招待（1,126 名）	スポーツプロモーション・ オフィス	―
31	平成 29 年 11 月 22 日	世田谷区立深沢保育園（日体大 3B03 体育館） 保育園における活動補助	児童スポーツ教育学部 幼児教育保育ｺｰｽ学生	43 名
32	平成 29 年 11 月 24 日	世田谷区立深沢保育園（日体大 3B03 体育館） 保育園における活動補助	児童スポーツ教育学部 幼児教育保育ｺｰｽ学生	50 名
33	平成 29 年 11 月 26 日	青葉区民マラソン 運営補助	陸上競技部 保健医療学部 他	100 名
34	平成 29 年 12 月 2 日	マルシェぶらり～と青葉台 2017 青葉台商店会	ダブルダッチサークル ブラスバンド部	19 名
35	平成 29 年 12 月 2 日	ハッピーテラス本八幡（発達障害児ｻｰﾋﾞｽ） ダブルダッチに挑戦しよう！	ダブルダッチサークル	4 名
36	平成 29 年 12 月 3 日	青葉区政推進課企画調整係 健康をテーマとした6大学連携講座	伊藤譲教授	1 名
37	平成 29 年 12 月 5 日	私立駒沢どろんこ保育園（日体大 5105 体育館） 保育園における活動補助	児童スポーツ教育学部 幼児教育保育ｺｰｽ学生	10 名

38	平成 29 年 12 月 13 日	私立用賀なのはな保育園 保育園における活動補助	児童スポーツ教育学部 幼児教育保育コース学生	49 名
39	平成 29 年 12 月 28 日 29 日	一般社団法人シャイニング イヤーエンドマラソン in 昭和記念公園	人材バンク	2 名
40	平成 29 年 1 月～ 平成 30 年 3 月(通年)	中央区 子どもの得意スポーツ発見事業	児童スポーツ教育学部	延べ 172 名
41	平成 29 年 4 月～ 平成 30 年 3 月(通年)	平成 29 年度神奈川県立学校 部活動支援学生ボランティア	人材バンク	1 名
42	平成 29 年 4 月～ 平成 30 年 3 月(通年)	世田谷区立小ミニバスケットボールクラブ 「中丸ダンクス」のコーチ	人材バンク	1 名

表9 施設開放(1 月～12 月)

No.	実施日	依頼先	内　容	開放施設
1	平成 29 年 1 月 8 日	認定 NPO 法人スペシャル オリンピクス日本・東京	体操競技プログラム練習	世:体操場
2	平成 29 年 1 月 22 日	認定 NPO 法人スペシャル オリンピクス日本・東京	体操競技プログラム練習	世:体操場
3	平成 29 年 2 月 12 日	認定 NPO 法人スペシャル オリンピクス日本・東京	体操競技プログラム練習	世:体操場
4	平成 29 年 2 月 19 日	一般社団法人日本女性 心身医学会	日本女性心身医学会	2503、2504、2505 世:各会議室
5	平成 29 年 2 月 26 日	認定 NPO 法人スペシャル オリンピクス日本・東京	体操競技プログラム練習	世:体操場
6	平成 29 年 3 月 1 日	日体幼稚園	卒業式	世:記念講堂
7	平成 29 年 3 月 3 日～ 平成 29 年 3 月 5 日	幼少児健康教育学会	日本幼少児健康教育学会第 35 回大会	世:記念講堂 世:1201 教室 世:1202 教室
8	平成 29 年 3 月 12 日	認定 NPO 法人スペシャル オリンピクス日本・東京	体操競技プログラム練習	世:体操場
9	平成 29 年 3 月 16 日 平成 29 年 3 月 17 日	日体柔整専門学校	卒業式	世:記念講堂 世:3B03 体育館
10	平成 29 年 3 月 22 日	公益財団法人日本財団 パラリンピックサポートセンター	イベント	世:記念講堂
11	平成 29 年 3 月 25 日	日本水中スポーツ学会	講演会	健:1301 教室
12	平成 29 年 3 月 26 日	認定 NPO 法人スペシャル オリンピクス日本・東京	体操競技プログラム練習	世:体操場
13	平成 29 年 4 月 9 日	認定 NPO 法人スペシャル オリンピクス日本・東京	体操競技プログラム練習	世:体操場
14	平成 29 年 4 月 10 日 平成 29 年 4 月 11 日	日体幼稚園	入園式	世:記念講堂 世:N レストラン
15	平成 29 年 4 月 21 日～ 平成 29 年 4 月 23 日	玉川消防少年団	平成 29 年度玉川消防少年団 入卒団式	世:記念講堂 世:N レストラン 世:N ラウンジ他

16	平成 29 年 4 月 9 日	認定 NPO 法人スペシャル オリンピクス日本・東京	体操競技プログラム練習	世:体操場
17	平成 29 年 4 月 23 日	認定 NPO 法人スペシャル オリンピクス日本・東京	体操競技プログラム練習	世:体操場
18	平成 29 年 5 月 14 日	認定 NPO 法人スペシャル オリンピクス日本・東京	体操競技プログラム練習	世:体操場
19	平成 29 年 5 月 28 日	認定 NPO 法人スペシャル オリンピクス日本・東京	体操競技プログラム練習	世:体操場
20	平成 29 年 6 月 11 日	認定 NPO 法人スペシャル オリンピクス日本・東京	体操競技プログラム練習	世:体操場
21	平成 29 年 6 月 25 日	認定 NPO 法人スペシャル オリンピクス日本・東京	体操競技プログラム練習	世:体操場
22	平成 29 年 7 月 9 日	認定 NPO 法人スペシャル オリンピクス日本・東京	体操競技プログラム練習	世:体操場
23	平成 29 年 7 月 18 日～ 平成 29 年 7 月 21 日	学友会公式野球部	青葉ベースボールフェスタ (交流戦/地域住民無料観戦)	健:野球場
24	平成 29 年 7 月 23 日	認定 NPO 法人スペシャル オリンピクス日本・東京	体操競技プログラム練習	世:体操場
25	平成 29 年 7 月 23 日	たけのこぐみ	親子参加型コンサート	健:第三体育館 I
26	平成 29 年 8 月 4･5 日	公益財団法人 パラリンピックサポートセンター	イベント	世:メインアリーナ 記念講堂　他
27	平成 29 年 8 月 27 日	鴨志田西団地テニス同好会	テニスチーム対抗イベント	健:テニスコート
28	平成 29 年 9 月 4･5 日	東京消防庁玉川消防署	自衛消防活動技術大会開催	世:グラウンド バイク置き場
29	平成 29 年 9 月 10 日	認定 NPO 法人 スペシャルオリンピックス日本・東京	体操競技プログラム	世:体操場
30	平成 29 年 9 月 12･13 日	日体幼稚園	親子でプール	世:屋内プール
31	平成 29 年 9 月 13 日	日本教育工学会	学会研究会(シンポジウム)	世:記念講堂
32	平成 29 年 9 月 20 日	日体幼稚園	親子でプール	世:屋内プール
33	平成 29 年 9 月 24 日	認定 NPO 法人 スペシャルオリンピックス日本・東京	体操競技プログラム	世:体操場
34	平成 29 年 10 月 7 日	グリーンフィールド上野毛保育園	運動会	世:体操場 (中体育館)
35	平成 29 年 10 月 8 日	認定 NPO 法人 スペシャルオリンピックス日本・東京	体操競技プログラム	世:体操場
36	平成 29 年 10 月 14 日	世田谷区立深沢保育園	運動会	世:　記念講堂
37	平成 29 年 10 月 21 日	駒沢どろんこ保育園	運動会	世:体操場 (中体育館)
38	平成 29 年 10 月 21 日	日本質的心理学会	シンポジウム	世:2205 教室

39	平成 29 年 10 月 22 日	認定 NPO 法人 スペシャルオリンピックス日本・東京	体操競技プログラム	世:体操場
40	平成 29 年 11 月 3 日	社会福祉法人世田谷共育舎	職員研修	世:記念講堂
41	平成 29 年 11 月 12 日	認定 NPO 法人 スペシャルオリンピックス日本・東京	体操競技プログラム	世:体操場
42	平成 29 年 11 月 24・26 日	東京消防庁玉川消防署	第 67 回はたらく消防の写生会 及び表彰式	世:記念講堂
43	平成 29 年 11 月 26 日	認定 NPO 法人 スペシャルオリンピックス日本・東京	体操競技プログラム	世:3B03 体育館
44	平成 29 年 12 月 8～10 日	子どものからだと心・連絡協議会	第 39 回子どものからだと心 全国研究会議	世:記念講堂 1201 教室　他
45	平成 29 年 12 月 10 日	認定 NPO 法人 スペシャルオリンピックス日本・東京	体操競技プログラム	世:体操場
46	平成 29 年 12 月 16・17 日	特定非営利活動法人 日本パラ・パワーリフティング連盟	第 18 回全日本パラ・パワーリ フティング選手権大会	世:記念講堂 3B03 体育館
47	平成 29 年 12 月 23・24 日	日本体育大学学友会剣道部	第 14 回全国中学生剣道大会 学生審判講習会	健:米本記念 体育館
48	平成 29 年 12 月 24 日	認定 NPO 法人 スペシャルオリンピックス日本・東京	体操競技プログラム	世:体操場

※　上記表9の施設開放(無料)以外に、日本体育大学施設の目的外使用規程第6条第2号～第 4 号に基づき、施設使用料が減免となっている施設貸出しについては、東京・世田谷キャンパスで 120 件(資料　表 9-A)、横浜・健志台キャンパスでは 125 件(資料　表 9-B)となっている。

表10　地域の美化運動・防災訓練等(1 月～12 月)

No.	実施日	実施内容及び場所	実施担当者	派遣人数
1	平成 29 年 1 月 21 日	第 5 回クリーン大作戦(平成 28 年度) 世田谷、健志台	クラブ・サークル	97 名 (25 団体)
2	平成 29 年 4 月 22 日	桜新町親和会 ゴミゼロデー、桜の花びら清掃	深沢寮生 和泉寮生	6 名
3	平成 29 年 5 月 20 日	第 1 回クリーン大作戦 世田谷、健志台	クラブ・サークル	86 名 (21 団体)
4	平成 29 年 6 月 4 日	深沢地区ゴミ減量・リサイクル推進委員会 古着・古布回収	深沢寮生	10 名
5	平成 29 年 6 月 24 日	第 2 回クリーン大作戦 世田谷、健志台	クラブ・サークル	118 名 (21 団体)
6	平成 29 年 7 月 8 日	大クリーン大作戦、第 1 弾 in 岩井海岸 千葉県南房総市岩井海岸清掃	クラブ・サークル	88 名 (15 団体)
7	平成 29 年 7 月 23 日	等々力の家 平成 29 年度第 1 回地域合同総合消防訓練	深沢寮生 和泉寮生	10 名
8	平成 29 年 9 月 10 日	グリーンヒル鴨志田西団地 環境美化作業	本学教職員	30 名
9	平成 29 年 10 月 14 日 ～15 日	防災訓練 in 日本体育大学	スポーツプロモーショ ン・オフィス	5 名

10	平成 29 年 11 月 18 日	大クリーン大作戦 第 2 弾 in 渋谷 渋谷駅周辺～美竹公園内	クラブ・サークル	143 名 (17 団体)
11	平成 29 年 11 月 19 日	深沢地区ゴミ減量・リサイクル推進委員会 古着・古布回収	深沢寮生	10 名
12	平成 29 年 11 月 25 日	桜新町親和会 ゴミゼロデー、桜並木清掃	深沢寮生 和泉寮生	5 名
13	平成 29 年 12 月 2 日	第 4 回クリーン大作戦 世田谷、健志台	クラブ・サークル	103 名 (25 団体)
14	平成 29 年 12 月 3 日	グリーンヒル鴨志田西団地 環境美化作業	本学教職員	38 名

【エビデンス集・資料編】

1．3－(1)－1　平成 29 年度社会貢献事業報告書
2．3－(1)－2　平成 29 年度研究活動中間報告
3．3－(2)－1　公開講座パンフレット・講義要項等
4．3－(2)－2　公開講座実施報告書
5．3－(3)－1　社会貢献事業派遣受付簿
6．3－(3)－2　平成 29 年度人材バンク学科別登録状況
7．3－(3)－3　日本体育大学施設の目的外使用規程
8．3－(3)－4　施設開放(1 月～7 月)
　　東京・世田谷キャンパス(表9－A)、横浜・健志台キャンパス(表9－B)
7．3－(3)－5　幼稚園・保育園における活動補助者事業の実施報告書

【自己評価】

テーマ3は満たしている。

【改善・向上方策(将来計画)】

研究活動については、地域の課題の抽出とその課題解決に資するように展開することを心がけるとともに、それらの成果に基づいたプログラムの企画・立案を積極的に推進し、全学的に公募した公開講座やスポーツ教室等と合せて実施する。また、人材バンクへの登録者増を図るためにセミナー等を開催するなどした周知活動を活性化する。なお、美化運動の全学的な取り組みを推進して、地域社会貢献活動への参画意識の醸成を図るべきである。

以上

平成 30 年 4 月 23 日
第 1 回地域社会連携本部会議
資料 2-2

日本体育大学社会貢献推進機構
外部評価委員会（社会貢献推進事業評価委員会）

評 価 報 告 書

（平成 29 年度）

社会貢献推進事業評価結果

学部新設やそれに伴う組織改正にも対応しながら、全学組織として事業を展開する組織体制を継続できている事は高く評価できる。

また、日体大地域スポーツコーディネーター（日体大 CSC）資格創設が決定され、地域志向の研究活動が実行されるなど、社会貢献推進機構が展開したい事業のイメージは徐々に具現化されつつある。一方で特に教員に対する社会貢献活動への参画の機運醸成や、学生による人材バンクの登録状況の改善、公開講座およびスポーツ教室等の定員充足率の向上など、昨年からの継続する課題について、特段目立った改善が図られていない事は早急に対応する必要性がある。今後、特に現在休眠状態にある分野別委員会の活性化を図り機能的に活用し、十分議論を尽くした上で改善に取り組んで行くことが期待される。

Ⅰ．総評

大学院研究科長や新設される学部長、附置機関長を社会貢献推進機構の組織に加えるなど、規程上の整備の面からも、昨年度に引き続き全学組織及び地域関連団体との連携を図りながら事業を展開している点は評価できるが、学内の意識醸成は未だ十分とは言えない。特に事業を推進する上で学生への影響力が強い教員へのアプローチを改善したい。

一方、日体大地域スポーツコーディネーター（日体大 CSC）資格の創設が決定され、現在のスポーツ振興に係る行政的課題に即した4つのカテゴリーでの人材養成を明らかにしたことや、地域の課題解決に資する研究活動が実稼働し、研究テーマについても社会的な関心の高い分野が選択されている事は高く評価する事ができる。今後、研究成果をどのように活用していくのかに大きく期待したい。

公開講座およびスポーツ教室等は、昨年度よりも質的・量的な拡充が図られたものの定員充足率が十分ではなく引き続き広報活動の検討が課題となる。加えてテーマのマンネリ化が懸念され、地域研究活動の成果を踏まえ、行政との更なる連携強化等を図って、地域のニーズを反映した公開講座が実施されるようなシステムの構築が急がれ、これに加え出前型の公開講座の実施についても検討を加えるよう進めることが望まれる。

社会貢献推進機構として、推進したい事業の展開イメージは具現化されつつあるが、いずれも拙速になってはならない。事業を展開する上では実効的な役割を担う各種委員会をしっかり機能させ、十分に議論を尽くした上で実稼働に移す事が最も重要であると考えられる。

また、自己点検評価及び外部評価が次年度事業の推進に反映されるよう工夫されたい。

Ⅱ．三つの意見

1．特に優れた試みと評価できる事項

◆　テーマ１　学内組織の整備と事業方針及び事業計画の明確化

大学院研究科長、新学部長、附置機関長を加えるなど、社会貢献活動を推進して行く上で必要な組織構成が充分に整備され、必要に応じて迅速に規程類が改正されている。

◆　テーマ２　地域との連携体制の構築及び地域志向の教育課程編成

日体大地域スポーツコーディネーター（日体大　CSC）として、現在のスポーツ振興に係る行政的課題に即した4つのカテゴリーでの人材養成を明らかにしたこと。

◆　テーマ３　地域の課題解決に向けた効果的なプログラムの実施と貢献活動の推進

地域の課題解決に資する研究活動が具体的に展開されている事は高く評価できる。
また、研究テーマについても社会的な関心の高い分野が選択されており、研究結果に大きく期待ができる。

2．向上・充実のための課題

◆　テーマ１　学内組織の整備と事業方針及び事業計画の明確化

自己点検評価、外部評価が運営戦略会議の審議に反映される道筋を確立すること。
また、事業を推進する上で学生への影響力が強い教員へのアプローチを改善したい。
教授会における説明以外での個別説明会などを検討したい。

◆　テーマ２　地域との連携体制の構築及び地域志向の教育課程編成

日体大 CSC 資格取得に際しては、講義形式での学習に限らず、アクティブラーニングに類する実地での実践的な実習が非常に重要となる。その上では、現在各自治体と締結している包括的連携協定から一歩踏み込んだ事業協力等を図り、学生の学習の場を確保するよう検討されたい。

◆　テーマ３　地域の課題解決に向けた効果的なプログラムの実施と貢献活動の推進

公開講座等の定員充足率が十分ではない。引き続き広報活動の検討が課題となる。
また、テーマのマンネリ化が懸念され、行政との更なる連携強化等を図って地域のニーズを反映した公開講座が実施されるようなシステムの構築を検討されたい。
加えて、公開講座等はほぼ大学内での実施のみで展開されており、今後出前型の公開講座の実施についても検討されたい。

3．早急に改善を要すると判断される事項

◆　テーマ１　学内組織の整備と事業方針及び事業計画の明確化

事業を展開する上で実効的な役割を担う各分野別委員会を実施する必要がある。

◆　テーマ２　地域との連携体制の構築及び地域志向の教育課程編成

日体大 CSC 資格の導入は拙速になってはならない。資格を取得した人材がどのような場所で活躍できるのか、この点についてしっかり議論し、見通しを明らかにした上で実稼働させなければならない。

◆　テーマ３　地域の課題解決に向けた効果的なプログラムの実施と貢献活動の推進

人材バンク登録者数が増加していない現状については早急な原因の分析が必要である。
また、オリンピック・パラリンピック教育推進活動を含めた外部からのボランティア派遣において、依頼内容と活動希望の学生とのマッチングに課題があり、学生派遣が実施されないケースも散見される。早急な改善が必要と言える。

　公開講座実施報告の記載様式を見直し、講座を実施した教員等の感想（反省点や改善要望事項など）を記載する欄を設けたらどうか。次年度以降の改善充実に資するものと期待される。

平成 30 年 4 月 23 日
第 1 回地域社会連携本部会議
資料 2-3-①

日本体育大学社会貢献推進機構
外部評価委員会　教育活動評価委員会

平成 30 年2月19日

評　価　報　告　書

（平成 29 年度）

教育活動評価結果

建学の精神、ミッション、ヴィジョンに則った人材育成を実現すべく、日体大 CSC 資格制度の創設をはじめ、ボランティア活動の充実等、多面的な取組みを推進しており評価できる。さらに、ボランティア活動の意義ややりがいという意識付けを意図した取組みを進め、資格制度のベースとなる教育課程における学習成果とボランティア活動等によって得た経験等を連動させて、大学卒業後も地域に貢献していくという意識の高い人材の輩出に向けて検討を進める必要がある。

1. 総評

地域振興をリードする人材養成という社会的使命に対し、日体大 CSC 資格を創設することにより全学一体となった取り組みが進められている所は高く評価できるが、地域志向の授業科目の設定など教育課程の具体的な編成については、社会情勢を踏まえ、スピード感を持った対応が期待されるところである。

また、大学の資源を生かした各種体育・スポーツ活動への支援や、美化・防災に関する支援活動に加え、多種多様な公開講座・スポーツ教室等の開催も増加しているところではあるが、活動を支える学生の人材バンクの登録数は前年度より減少している。教育課程の編成等において、学生に対してボランティア活動の目的や意義など啓発する機会を確保し、人材バンクの登録者数の増加を図る事で一層の活動の活性化を図りたい。そのためには分野別委員会を開催する事で、教育、研究、社会貢献のそれぞれのセクションにおける課題を整理し、機構長へ上申する事で学内の共通理解を図り、全学一体となった取り組み推進が望まれる。

2. 三つの意見

1. 特に優れた試みと評価できる事項

地域振興をリードするという社会的使命に対し、日体大 CSC 資格を創設することにより具体的な取り組みを進めている。また、当該資格において、小学校体育活動コーディネーターや障がい者スポーツコーディネーター（いずれも仮称）という体育・スポーツ分野における今日的課題解決に資する資格が含まれている事は高く評価できる。また、大学の人的・物的資源を生かした体育・スポーツ活動への支援や、多種多様な公開講座・スポーツ教室等を継続することで、日体大の社会貢献活動が益々社会より認知されていくと考える。

2. 向上・充実のための課題

分野別委員会を開催する事で、それぞれのセクションにおける課題を整理し、機構長へ上申できるシステムをしっかり活用したい。また、社会的ニーズの高い障がい者スポーツの指導者養成を図り、これに係る施設を国内に拡充できるような人材養成に努める事が期待される。なお、大学の特色を活かした公開講座等は実施できているが、特に成人男性の地域コミュニティ形成の一助となる講座等の開設が期待される。

３. 早急に改善を要すると判断される事項

日体大CSC資格の創設に合わせて、カリキュラム上に地域志向の授業科目を配置し、当該資格が地域社会からも高く認知される実効性の高い資格となるよう進めて欲しい。また、人材バンクの登録者が前年度より減少するなかで、学生に対してボランティア活動の目的や意義など啓発する事で、登録者数の増加を図ることが望まれる。

平成 30 年 4 月 23 日
第 1 回地域社会連携本部会議
資料 2-3-②

日本体育大学社会貢献推進機構
外部評価委員会　研究活動評価委員会

平成 30 年 2 月 13 日

評　価　報　告　書

（平成 29 年度）

研究活動評価結果

社会貢献活動を展開していく上での組織構成は十分であり、かつ建学の精神を踏まえた社会貢献活動のあり方と方向性は明確に示されている。

研究活動においては、今年度より実効的な5つの研究課題が設定され、地域の課題やニーズの掘り起こしが始まったことは評価できる。

今後この掘り起こされた課題やニーズを解決していくための活動を大学全体で実施していく事となる。その前提として教職員を中心とした学内における地域社会貢献活動に関する取り組みへの理解と参画する意欲がどこまで醸成されているかが課題となる。

また、5つの研究課題については、その研究成果を公表する事で地域のみならず広く一般社会へ還元されていく事を期待したい。

Ⅰ. 総評

毎年の自己点検・評価及び外部評価で明らかとなった課題の解消に努め、各種の活動を確実にブラッシュアップしており、社会貢献活動の充実ぶりが伺える。社会貢献推進機構が目指す「健康で豊かなスポーツライフの構築」や地域志向の人材養成像などが明らかになってきている。ただし、残念ながら、教職員の社会貢献に対する理解度が十分とは言えず、この点の改善が望まれるところである。

懸案となっていた研究活動もスタートし、今後は、研究成果によって明らかとなる地域課題への対応、さらにはより高度な人材育成の仕組みの構築が期待されるところである。と同時に、各種の研究を推進するにあたり、その周辺環境の整備も重要なポイントになると考えられ、早期の対策が必要である。

Ⅱ. 三つの意見

1. 特に優れた試みと評価できる事項

建学の精神やミッション、ヴィジョンを踏まえつつ、地域社会貢献活動の理念・目的を明確にしている。加えて学長を機構長に据え、地域社会と密接な連携を図りつつ組織的に事業を展開している点は特に評価できる。

また、日体大独自のCSC資格制度は、地域を志向した人材養成の面からも大きく期待できるものであり、早期での実行が待たれる。

2. 向上・充実のための課題

学友会（部活動）や学生寮などに所属していないいわゆる一般学生の社会貢献活動への参加を促進し、普遍化を図ることが必要である。

そのために日体大 CSC 資格制度を実行に係る教育課程の編成を行い、一般学生が積極的に社会貢献活動に従事できるよう、多様な社会貢献活動に対応できる授業科目の設定、これに伴うシラバスの作成が望まれる。

３. 早急に改善を要すると判断される事項

各分野別委員会を開催して、経年的に改善がなされていない、特に教職員を中心とした学内における地域社会貢献活動に関する取り組みへの理解と参画する意欲の醸成が必要である。

平成 30 年 4 月 23 日
第 1 回地域社会連携本部会議
資料 2-3-③

日本体育大学社会貢献推進機構
外部評価委員会　地域活動評価委員会

平成 30 年 2 月 23 日

評 価 報 告 書

（平成 29 年度）

地域活動評価結果

社会貢献活動を展開していく上での全学的な組織体制は築き上げられており、事業方針を踏まえた事業計画の立案がなされている。また、地域と連携した活動の中で、地域課題の解決に向け、大学の有する資源と機能を積極的に活用していることは評価に値する。

次年度は機構設置から 5 年目を迎え、さらには 5 学部体制となることから、社会貢献活動に対する取り組みが第 2 ステージへステップアップすることを大いに期待する。

1. 総評

建学の精神や、ミッション・ヴィジョンに基づく全学的な組織体制の構築が規程改正を伴いながら整えられている。また、両キャンパスが立地する自治体等との連携体制が確立され、活動も充実している様子がうかがえる。さらに、人材育成を具体的に図る取り組みとして、日体大 CSC 資格制度が教育課程として具現化された点は高く評価できる。

地域が取り組むスポーツイベント・美化活動に、学生がボランティアとして積極的に参加しており、地域への貢献度は大きい。そして、スポーツならびに健康に関する多くの講座・各種教室の開設により、多くの人々の健康増進に寄与している。

しかしながら、現時点で分野別委員会が未開催であるため、今後は分野別委員会の役割を明確化し、その活動の活性化を図ることを期待したい。

2. 三つの意見

1. 特に優れた試みと評価できる事項

日体大 CSC 資格制度が創設され、地域志向の人材育成が期待される。また、ボランティア活動や美化活動に対して学生が積極的に取り組む姿勢がうかがえ、さらには学友会組織との連携を図り、社会貢献活動が拡大されていることは高く評価したい。

公開講座・各種教室については、社会の状況を捉え、受講者が参加しやすいプログラムになっており、非常に充実した内容といえる。

2. 向上・充実のための課題

昨年度課題として挙げられた学生・教職員に対する周知徹底に努めているが、まだ不十分であると感じられる。また、公開講座・各種教室のプログラム内容が地域のニーズに合致しているため、さらなる広報活動の充実が望まれる。来年度より日体大 CSC 資格制度が開設され、質の高い人材資源の提供をすることが期待されるが、地域の課題解決に向けて貢献するためには学生のさらなる意識改革を要望する。

３. 早急に改善を要すると判断される事項

社会貢献活動をさらに軌道に乗せるためには、各分野別委員会を早期に開催し、各委員会の役割を明確にした上で、次年度の計画・立案を図ることが急務である。また、人材バンクの登録者が減少していることから、日体大 CSC 資格制度を活用したシステム作りが望まれる。

平成30年4月23日
第1回地域社会連携本部会議
資料 3

日本体育大学社会貢献推進機構 社会貢献推進事業 中期計画

【事業方針】

地域（東京都世田谷区、青葉区を中心とした横浜市）の課題およびニーズの抽出を情報収集や研究活動を通じて積極的に行い、これらの課題の改善・解消、あるいはニーズに応え得る各種の取り組みの開発に努め、全学的に対応する。

また、本学独自の資格制度（CSC=Community Sport Coordinator）を2019年度からスタートさせるように進め、この制度を柱とした質の高い人材育成に関して、実効性の高い運用を行って実現する。

地域・社会貢献活動の活性化を継続的に推進するため、引き続き、全学的な周知徹底はもちろんのこと、対社会に向けた情報発信に努める。

将来的には、本学が有する校友会（同窓生、保護者会等）組織と連携し、事業を全国的に展開するとともに、卒業生が活躍できる場の創出につなげることを目指す。

No.	事業内容	平成30	平成31	平成32	平成33	平成34
1	地域の自治体・スポーツ団体・企業等との連携強化					
	各種関係団体との連携強化	■	■	■	■	■
	協力企業の開発	■	■	■	■	■
	関連団体との共催事業の検討	■	■	■	■	■
	社会貢献活動に対する学内意識の醸成	■	■	■		
2	人材育成の充実					
	①CSC制度の創設と運用	■	■			
	②実効性の高い資格制度の運用		■	■	■	■
	③制度の検証とブラッシュアップ			■	■	■
	④資格取得者の社会的活動の場の拡大			■	■	■
3	地域の体育・スポーツに関する課題の改善・解消に資する研究活動の推進					
	平成29年度スタートの5件の研究活動の継続	■	■	■		
	研究成果に基づいた活動の検討・実施	■	■	■	■	
	新たな研究活動の開発・実施	■	■	■	■	■
	研究活動の充実に資する体制の確立	■	■	■		
	附置機関との連携強化	■	■	■	■	■
4	乳幼児期から高年期に対する各種取り組みの推進・充実					
	公開講座・スポーツ教室・健康運動教室の開催	■	■	■	■	■
	スポーツの観戦機会の提供の充実	■	■	■	■	■
	オリンピックムーブメントの推進	■	■	■		
	地域の防災への意識向上	■	■	■	■	■
	美化運動の推進	■	■	■	■	■
5	学内外の広報活動強化および当該事業の全国展開の実現					
	①学内外への広報の充実	■	■	■	■	■
	②総合型地域スポーツクラブ創設に向けた検討	■	■	■	■	■
	③事業の全国展開の検討	■	■	■	■	■

平成 30 年 4 月 23 日
第 1 回地域社会連携本部会議

案

資料 4

日本体育大学社会貢献推進機構
平成 30 年度事業方針・事業計画

【事業方針】

地域（東京都世田谷区、青葉区を中心とした横浜市）の課題及びニーズの抽出を情報収集や研究活動等を通じて積極的に行い、これらの課題の改善・解消、あるいはニーズに応え得る各種の取り組みの開発に努め、全学的に対応する。また、本学独自の資格制度（CSC＝Community Sport Coordinator）を 2019（平成 31）年度からスタートさせるように進め、この制度を柱とした質の高い人材育成に関して、実効性の高い運用を行って実現する。

地域・社会貢献活動の活性化を継続的に推進するため、引き続き、全学的な周知徹底はもちろんのこと、対社会に向けた情報発信に努める。

将来的には、本学が有する校友会（同窓生、保護者等）組織と連携し、事業を全国的に展開するとともに、卒業生が活躍できる場の創出につなげることを目指す。

【事業計画】

（ 教 育 ）

2019 新カリキュラムにおいて、本学独自の資格制度（CSC）をスタートさせる。これに伴い、2019 年度新入生への広報を行うとともに、当該資格制度に関する既存学生への対応を検討・決定して学内周知の徹底を図る。

（ 研 究 ）

東京都世田谷区および青葉区を中心とした横浜市を主たる対象地域として、地域の体育・スポーツに関する課題やニーズの抽出、あるいはスポーツ文化の向上等に資する次の5件の研究を継続して推進する。また、このほかにも当機構として取り組むべきテーマについて検討を加えるものとする。

①地域住民の体力向上・健康増進　②地域障害者スポーツ機会の向上と指導者支援
③地域住民のスポーツへの関心の向上　④地域スポーツ指導者の意識・技術向上
⑤学校体育の充実

（社会貢献）

乳幼児期から高年期まで全ての年代を対象として、研究活動から導き出された地域の体育・スポーツ課題の解決につながる実効性の高い取り組みや地域が期待するテーマに関する講座等を積極的に開催できるよう推進する。また、美化運動や防災訓練等を通じた地域住民との良好な関係性の構築にも努めるものとする。

①公開講座、スポーツ教室等の企画・実施　②スポーツ等の観戦機会の提供
③オリンピックムーブメントの推進　④地域の防災への意識の向上

（その他）

受益者負担を原則としつつ、自治体や企業等との連携体制を充実し、活動に必要となる支援を得ることができるよう努めるとともに、広報活動のさらなる充実を目指す。

平成 30 年 4 月 26 日
第 1 回地域社会連携本部会議
資料 5

平成30年度日本体育大学公開講座・各種教室一覧

１．健康運動教室

①筋トレのすゝめ

日　時　　平成30年6月10日（日）、11月11日（日）
場　所　　東京・世田谷キャンパス　スポーツ棟1F　スポーツ・トレーニングセンター
講　師　　体育学部　助教　菊池　直樹（トレーニング研究室）
　　体育学部　助教　小畑　直之（トレーニング研究室）
対　象　　一般（本学教職員・学生及び高校生の場合は無料）
定　員　　30名
受講料　　1,000円（1回）
主　催　　日本体育大学社会貢献推進機構
主　管　　トレーニング研究室
後　援　　世田谷区、世田谷区スポーツ振興財団

②日体大筋トレ塾

日　時　　平成30年8月6（月）から9月27（木）の期間中における毎週月・木曜日
　　（Aグループ：16:00～18:00、Bグループ：18:30～20:30）
　　※説明会及び測定（8/4）及びトレーニング終了後測定（9/29）あり
場　所　　東京・世田谷キャンパス　スポーツ棟1F　スポーツ・トレーニングセンター
講　師　　体育学部　助教　菊池　直樹（トレーニング研究室）
　　体育学部　助教　小畑　直之（トレーニング研究室）
対　象　　一般（本学教職員・学生及び高校生の場合は無料）
定　員　　15名
受講料　　なし
主　催　　日本体育大学社会貢献推進機構
主　管　　トレーニング研究室
後　援　　世田谷区、世田谷区スポーツ振興財団

③めざせ！トップアスリート

～キッズからできる・ケガ予防・トレーニング・栄養管理を学んで将来をかえよう～

日　時　　平成30年5月20日（日）、6月24日（日）、7月15日（日）、8月19日（日）
　　9月23日（日）、10月21日（日）、12月23日（日）、平成31年1月27日、
　　2月24日（日）
場　所　　横浜・健志台キャンパス
講　師　　保健医療学部　教授　伊藤　譲（運動器外傷学研究室）
　　体育学部　准教授　岡田隆（運動器外傷学研究室）
　　スポーツキュアセンタースタッフ他
対　象　　一般（本学教職員・学生及び高校生の場合は無料）
定　員　　15名
受講料　　なし
主　催　　日本体育大学社会貢献推進機構
主　管　　保健医療学部
後　援　　横浜市市民局、横浜市体育協会

④らくらくエアロビクス運動教室

日　時　　【世田谷】平成30年5月26日、6月30日、7月21日、9月13日、11月17日
　　【健志台】平成30年5月19日、6月23日、7月28日、9月27日、11月10日
場　所　　東京・世田谷キャンパス　スポーツ棟BF 5B03体操場
　　横浜・健志台キャンパス　第3体育館
講　師　　非常勤講師　三矢　八千代（運動処方研究室）
　　非常勤講師　大津　桂子（運動処方研究室）
対　象　　一般（本学教職員・学生及び高校生の場合は無料）
定　員　　50名
受講料　　500円（1回）
主　催　　日本体育大学社会貢献推進機構
主　管　　スポーツプロモーション・オフィス
後　援　　世田谷区、世田谷区スポーツ振興財団、横浜市市民局、横浜市体育協会
補　助　　学友会エアロビック同好会

⑤ゆるヨガ～はじめてのヨガ～

日　時　　平成30年5月26日、6月30日、7月21日、9月22日、10月13日、11月17日、
　　12月1日、1月26日
場　所　　東京・世田谷キャンパス　教育研究棟BF 3B03体育館
　　横浜・健志台キャンパス
講　師　　金附　明花（日本体育大学卒業生　全米ヨガアライアンスRYT200、ヨガ安全指導
　　員資格保有）
対　象　　一般（本学教職員・学生及び高校生の場合は無料）
定　員　　30名
受講料　　1,000円（1回）
主　催　　日本体育大学社会貢献推進機構
主　管　　スポーツプロモーション・オフィス
後　援　　世田谷区、世田谷区スポーツ振興財団、横浜市市民局、横浜市体育協会

⑥膝痛さようなら体操教室

日　時　　平成30年後学期開催を予定
場　所　　横浜・健志台キャンパス　スポーツキュアセンター
講　師　　保健医療学部　教授　伊藤　譲（運動器外傷学研究室）他
対　象　　一般（本学教職員・学生及び高校生の場合は無料）
定　員　　20名
受講料　　1,000円（1回）
主　催　　日本体育大学社会貢献推進機構
主　管　　保健医療学部
後　援　　横浜市市民局、横浜市体育協会

２．指導講習会

①救命蘇生法講習会

日　時　　平成30年6月3日（日）
場　所　　東京・世田谷キャンパス 1301教室
講　師　　保健医療学部　教授　小川　理郎（救急蘇生・災害医療学研究室）
　　保健医療学部　教授　鈴木　健介（救急蘇生・災害医療学研究室）
対　象　　一般（本学教職員・学生及び高校生の場合は無料）
定　員　　60名
受講料　　なし
主　催　　日本体育大学社会貢献推進機構
主　管　　保健医療学部救急医療学科
後　援　　世田谷区、世田谷区スポーツ振興財団

３．公開講座

①第27回幼児教育講座

日　時　　平成30年7月28日（土）9:30～15:45
場　所　　東京・世田谷キャンパス　教育研究棟5F2503大会議室、スポーツ棟BF5B03体操場
講　師　　児童スポーツ教育学部　教授　笠井　里津子（ダンス・伝統芸能研究室）
　　国沢　真弓（外部講師）
対　象　　一般（本学教職員・学生及び高校生の場合は無料）
定　員　　70名
受講料　　なし
主　催　　日本体育大学社会貢献推進機構
主　管　　児童スポーツ教育学部
後　援　　世田谷区、世田谷区スポーツ振興財団、世田谷区教育委員会
　　世田谷区市立幼稚園協会

②子どものスポーツ外傷・障害の予防や救急処置

日　時　　平成30年度後学期予定
場　所　　横浜・健志台キャンパス
講　師　　保健医療学部　教授　久保山　和彦（スポーツ・コンディショニング研究室）
対　象　　一般（本学教職員・学生及び高校生の場合は無料）
定　員　　250名
受講料　　なし
主　催　　日本体育大学社会貢献推進機構
主　管　　保健医療学部
後　援　　横浜市市民局、横浜市体育協会

③災害時の対応講習会（こころのケア：サイコロジカル・ファーストエイド

日　時　　平成30年7月22日（日）
場　所　　横浜・健志台キャンパス
講　師　　河嶌　譲（独立行政法人国立病院機構災害医療センター精神科医長）他2名
対　象　　一般（本学教職員・学生及び高校生の場合は無料）
定　員　　60名
受講料　　なし
主　催　　日本体育大学社会貢献推進機構
主　管　　保健医療学部
後　援　　横浜市市民局、横浜市体育協会

４．その他

①からだのかたちと立位・歩行動作をはかる

日　時　　平成30年7月14日（土）、7月21日（土）
　　①8:30～10:30、②10:30～12:30、③13:30～15:00、④15:00～17:00
場　所　　横浜・健志台キャンパス　百年記念館1号館1M206測定室
講　師　　体育学部　教授　船渡　和男（スポーツバイオメカニクス研究室）
対　象　　一般（未就学児を除く）、小・中・高校生
定　員　　各日40名
受講料　　なし
主　催　　日本体育大学社会貢献推進機構
主　管　　スポーツバイオメカニクス研究室
後　援　　横浜市市民局、横浜市体育協会

平成30年4月23日
第1回地域社会連携本部会議
参考資料 1

横浜市　他

日本体育大学社会貢献推進事業に関する協定書

世田谷区（以下「甲」という。）及び学校法人日本体育大学（以下「乙」という。）は、乙の設置する日本体育大学（以下「日体大」という。）が実施する日本体育大学社会貢献推進事業（以下「推進事業」という。）に甲が協力することに関し、次の条項により協定を締結する。

（目的）

第１条　甲及び乙は、日体大の推進事業を通じ、それぞれが有する資源を有効に活用して体育・スポーツに関する地域の課題の解決を図り、地域住民の健康の維持増進、体育・スポーツ文化の向上及びこれに関する学術研究の進展並びに人材育成に貢献するとともに、活力ある個性豊かな地域社会の実現を目指すものとする。

（地域社会連携本部）

第２条　日体大は、推進事業を円滑かつ効果的に展開するため、地域社会連携本部（以下「連携本部」という。）を設置する。

２　連携本部は、甲及び日体大の職員並びに甲及び日体大が相当と認める者で構成する。

３　連携本部は、推進事業の方針及び計画を策定する。

４　前２項に定めるもののほか、連携本部について必要な事項は、別に定める。

（役割分担）

第３条　日体大は、前条第３項の方針に従って同項の計画の実施に努めるものとし、甲はこれに協力するものとする。

２　日体大は、推進事業の細目を定めるにあたっては、あらかじめ甲の意見を聴くものとする。

３　甲及び日体大は、推進事業を展開するにあたり、可能な限り相互に便宜を図るものとする。

（連絡担当者）

第４条　甲及び日体大は、それぞれ連絡担当者を選任し、当該連絡担当者を通じて必要な事務連絡を行うものとする。

（有効期間）

第５条　この協定の有効期間は、締結日から５年間とする。

２　前項の有効期間の満了日の３０日前までに、甲及び乙のいずれからも書面による申出がないときは、この協定は、同一の内容で有効期間を１年間延長するものとし、その後

においても同様とする。

（協議）

第６条　この協定に定めのない事項又はこの協定の解釈に疑義が生じた場合については、甲及び乙が協議して決するものとする。

この協定の成立を証するため、本書２通を作成し、甲及び乙がそれぞれ記名押印し、各自その１通を保有する。

平成２６年６月２０日

横浜市中区港町１丁目１番地
横浜市
市　長　　林　　文　子
他に、横浜市体育協会
世田谷区スポーツ振興財団

東京都世田谷区世田谷四丁目２１番２７号
甲　世田谷区
世田谷区長　　保　坂　展　人

東京都世田谷区深沢七丁目１番１号
乙　学校法人日本体育大学
理事長　　松　浪　健四郎

日本体育大学社会貢献推進機構

平成 30 年 4 月 23 日
第 1 回地域社会連携本部会議
参考資料 2

平成 26 年 8 月 7 日
地域社会連携本部会議決定

地域社会連携本部規則

（目的）

第１条　この規則は、日本体育大学社会貢献推進事業に関する協定（平成 26 年 6 月 20 日締結）第２条に規定する地域社会連携本部（以下「連携本部」という。）について、必要となる事項を定めるものとする。

（連携本部）

第２条　連携本部の構成員は、次の各号に掲げる者とする。

（１）世田谷区スポーツ推進部スポーツ推進課長

（２）横浜市市民局スポーツ振興部スポーツ振興課長

（３）公益財団法人世田谷区スポーツ振興財団事務局管理課長

（４）公益財団法人横浜市体育協会地域スポーツ振興部長

（５）横浜市青葉区総務部区政推進課長

（６）日本体育大学社会貢献推進機構連携推進担当

（７）日本体育大学社会貢献推進機構教育開発担当

（８）日本体育大学社会貢献推進機構研究開発担当

（９）日本体育大学社会貢献推進機構ｽﾎﾟｰﾂﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝ･ｵﾌｨｽﾃﾞｨﾚｸﾀｰ

（１０）その他、連携本部が必要と認めた者

２　構成員の任期は原則として単年度とし、再任を妨げない。ただし、構成員それぞれの所属団体において組織改編または異動等があった場合は、該当者の所属団体の長の申し出に基づき、年度内であっても交替することができる。

（本部会議）

第３条　連携本部は、本部会議（以下「会議」という。）を開催して、当該地域のニーズ、課題等に関する情報収集・分析を行い、これらに対応する事業方針及び事業計画を策定しなければならない。

（議長）

第４条　会議には議長を置き、連携本部の構成員の互選により決定する。

（開会及び議決）

第５条　会議は、連携本部の構成員の過半数が出席しなければ開会することができない。

２　会議では、他の連携本部の構成員への委任は認めない。

３　会議の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（非構成員の出席）

第６条　会議が必要と認めた場合は、各種スポーツ団体の関係者または学校関係者、あるいは地域住民等を出席させることができる。

（議事録）

第７条　議長は、会議終了後速やかに議事録を作成し、当該会議に出席した連携本部構成員に回付して確認の上保管しなければならない。

２　議事録の保管は日本体育大学社会貢献推進機構スポーツプロモーション・オフィスが行い、日本体育大学のホームページ上で公開するものとする。

（事務）

第８条　会議の事務は、日本体育大学社会貢献推進機構スポーツプロモーション・オフィスが行う。

附　則

この規則は、日本体育大学社会貢献推進事業に関する協定書の締結日をもって発効する。

日本体育大学社会貢献推進機構

平成 30 年 4 月 23 日
第 1 回地域社会連携本部会議
参考資料 3

地域社会連携本部構成員一覧

■ 「日本体育大学社会貢献推進事業に関する協定書」第2条に基づく「地域社会連携本部規則」の第2条による。

（敬称略）

No.	氏名	フリガナ	現 職 名	備 考
1	須藤 剛志	ｽﾄﾞｳ ﾂﾖｼ	世田谷区スポーツ推進部 スポーツ推進課長	
2	守屋 喜代司	ﾓﾘﾔ ｷﾖｼ	横浜市市民局スポーツ振興部 スポーツ振興課長	
3	小野 道子	ｵﾉ ﾐﾁｺ	公益財団法人世田谷区スポーツ振興財団 事務局管理課長	
4	森田 尚隆	ﾓﾘﾀ ﾅｵﾀｶ	公益財団法人横浜市体育協会 地域スポーツ振興部長	
5	鈴木 康介	ｽｽﾞｷ ｺｳｽｹ	横浜市青葉区総務部 区政推進課長	
6	小林 正利	ｺﾊﾞﾔｼ ﾏｻﾄｼ	日本体育大学社会貢献推進機構 連携推進担当	ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝｾﾝﾀｰ長 教授
7	三宅 良輔	ﾐﾔｹ ﾘｮｳｽｹ	日本体育大学社会貢献推進機構 教育開発担当	学生支援ｾﾝﾀｰ長 教授
8	野井 真吾	ﾉｲ ｼﾝｺﾞ	日本体育大学社会貢献推進機構 研究開発担当	総合ｽﾎﾟｰﾂ科学 研究ｾﾝﾀｰ長 教授
9	白旗 和也	ｼﾗﾊﾀ ｶｽﾞﾔ	日本体育大学社会貢献推進機構 スポーツプロモーション・オフィス オフィスディレクター	教授

平成 30 年 4 月 1 日 現在

※ 任期は原則として単年度とし、再任は妨げない。ただし、構成員それぞれの所属団体において組織改編または異動等があった場合は、該当者の所属団体の長の申し出に基づき、年度内であっても交替することができる。

※ 会議の事務は、日本体育大学社会貢献推進機構スポーツプロモーション・オフィスが担当する。

日本体育大学社会貢献推進機構及びスポーツプロモーション・オフィス構成員一覧

日本体育大学社会貢献推進機構を構成する者：機構規程第5条による構成。　　平成30年4月1日　現在

№.	職名	氏　名	備考（日本体育大学社会貢献推進機構規程）
1	機構長	具志堅　幸司	第5条第3項「学長」
2	副機構長	松井　幸嗣	第5条第4項「副学長（企画・管理・運営）」
3	大学院研究科長	阿江　通良	第5条第1項第3号「大学院研究科長」体育科学研究科
4	大学院研究科長	角屋　重樹	第5条第1項第3号「大学院研究科長」教育学研究科
	大学院研究科長	（平沼　憲治）	第5条第1項第3号「大学院研究科長」保健医療学研究科
5	学部長	水野　増彦	第5条第1項第4号「学部長」体育学部
6	学部長	八木沢　誠	第5条第1項第4号「学部長」スポーツ文化学部
7	学部長	石井　隆憲	第5条第1項第4号「学部長」スポーツマネジメント学部
8	学部長	久保　健	第5条第1項第4号「学部長」児童スポーツ教育学部
9	学部長	平沼　憲治	第5条第1項第4号「学部長」保健医療学部
10	附置機関長	根本　研	第5条第1項第5号「附置機関長」学生寮
11	附置機関長	三好　仁司	第5条第1項第5号「附置機関長」図書館
12	附置機関長	後藤　彰	第5条第1項第5号「附置機関長」教職支援センター
13	附置機関長	荒木　達雄	第5条第1項第5号「附置機関長」国際交流センター
	附置機関長	（小林　正利）	第5条第1項第5号「附置機関長」アドミッションセンター
14	附置機関長	山本　博	第5条第1項第5号「附置機関長」アスレティックデパートメント
	附置機関長	（平沼　憲治）	第5条第1項第5号「附置機関長」健康管理センター
15	連携推進担当	小林　正利	第5条第5項「教授会構成員　教授」
16	教育開発担当	三宅　良輔	第5条第1項第7号「学生支援センター長」
17	研究開発担当	野井　真吾	第5条第1項第8号「総合スポーツ科学研究センター長」
18	ベースマネージャー（世田谷）	波多腰　克晃	第5条第5項「教授会構成員　教授」
19	ベースマネージャー（健志台）	津山　薫	第5条第5項「教授会構成員　教授」
20	大学事務局長	大髙　秀二	事務局次長が代理

※№.15（連携推進担当），№.18及び№.19は、日本体育大学社会貢献推進機構規程第5条第5項により任期2年。（任期：平成31年3月31日まで）

（スポーツプロモーション・オフィス）：機構規程第4条により設置。第8条による配置。

№.	委嘱	氏　名	備考（スポーツプロモーション・オフィス）
1	ｽﾎﾟｰﾂﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝ・ｵﾌｨｽ　ｵﾌｨｽﾃﾞｨﾚｸﾀｰ	白旗　和也	第8条第2項「教授会構成員　教授」
2	ｽﾎﾟｰﾂﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝ・ｵﾌｨｽ　ｱｼｽﾀﾝﾄｵﾌｨｽﾃﾞｨﾚｸﾀｰ	石井　砂織	第8条第4項
3	ｽﾎﾟｰﾂﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝ・ｵﾌｨｽ　ｱｼｽﾀﾝﾄｵﾌｨｽﾃﾞｨﾚｸﾀｰ	増岡　啓彰	第8条第4項（併任　学生支援センター健志台事務室事務長）
4	ｽﾎﾟｰﾂﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝ・ｵﾌｨｽ　主任	塚田　直彦	第8条第6項
5	ｽﾎﾟｰﾂﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝ・ｵﾌｨｽ　ｵﾌｨｽｽﾀｯﾌ	岡田　順治	第8条第2項（併任　学生支援センター健志台事務室）
6	ｽﾎﾟｰﾂﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝ・ｵﾌｨｽ　ｵﾌｨｽｽﾀｯﾌ	長坂　実早紀	第8条第2項

※№.1は、任期2年。ただし、機構長に交代があった場合は、任期は満了したものとみなす。（任期　：　平成31年3月31日）

社会貢献推進機構運営戦略会議：機構規程第6条により設置。

No.	役職等	氏　名	備　　考
1	機構長	具志堅　幸司	学長
2	副機構長	松井　幸嗣	副学長（企画・管理・運営）
3	副学長（教学・学生）	笠井　里津子	副学長（教学・学生生活）
4	学部長	水野　増彦	体育学部長
5		八木沢　誠	スポーツ文化学部長
6		石井　隆憲	スポーツマネジメント学部長
7		久保　健	児童スポーツ教育学部長
8		平沼　憲治	保健医療学部長、健康管理センター長
9	連携推進担当	小林　正利	アドミッションセンター長
10	教育開発担当	三宅　良輔	学生支援センター長
11	研究開発担当	野井　真吾	総合ｽﾎﾟｰﾂ科学研究ｾﾝﾀｰ長
12	ベースマネージャー	波多腰　克晃	世田谷
13		津山　薫	健志台
	教務委員会委員長	（笠井　里津子）	
14	教養教育委員会委員長	林　忠男	
	大学事務局長	（大髙　秀二）	事務局次長が代理
15	オフィスディレクター	白旗　和也	
16	その他機構長が必要と認めた者 (職指定)	後藤　彰	教職支援センター長
17		荻　浩三	IRE室長
18		大髙　秀二	健志台統括

※　横浜・健志台ｷｬﾝﾊﾟｽに健志台統括が不在の場合、健志台統括のところは健志台事務室事務長とする。

平成 30 年 4 月 23 日
第 1 回地域社会連携本部会議
参考資料 5

日体大地域スポーツコーディネーター（日体大ＣＳＣ）制度の創設【案】

― Community Sport Coordinator ―

本学では、平成 26 年度に文部科学省が公募した地（知）の拠点整備事業（COC）に申請するにあたって、ミッション・ヴィジョンの一部を見直し、ヴィジョン（目標）に「地域振興をリードする大学を目指す」との文言を加えた。そもそも、80 年記念誌において、本学創立時には、民間団体として「政府に代わって体操教員の養成と社会体育の振興にあたる使命を担った」と近代日本に占める日本体育会の歴史的意義を解説している。

この歴史的背景を踏まえつつ、申請した計画の中に標記の制度創設が盛り込まれ、採択の可否にかかわらず大学として実施する旨の確認がなされたものであった。

地域が抱える体育・スポーツに関する様々な課題は、年代、生活環境など多岐に及ぶ。そのため、将来、地域における健康で豊かなスポーツライフの実現に向けて、体育・スポーツに関する専門的な知識だけでなく、自治体や学校等と連携・協力が図れるマネジメント能力を有する人材が必要になると考えられる。

本学では、教育課程の内外を通じて専門的知識、問題解決力、コミュニケーション力など、総合的能力の涵養を図り、住民の健康増進やスポーツ機会の向上、あるいはスポーツを通じた住民相互の交流の活性化等、継続的に地域の体育・スポーツ課題を解決していく実践力を兼ね備えた、地域社会において即戦力を発揮しうる人材育成のため、独自の包括的資格制度として日体大 CSC（Community Sport Coordinator）制度を創設するものである。

キャンパスが立地する東京都世田谷区および青葉区を中心とした横浜市を主な対象地域として活動を展開することになるが、ここで得た知見や経験・体験は、当該地域以外においても十分にそのパフォーマンスを発揮することが可能となるものである。

Ⅰ．運動部活動コーディネーター
昨今社会問題となりつつある中・高の正課外活動である部活動指導者

【資格特性】 学校教育における課外活動（運動部活動）において、スポーツの本質的な意義を理解した上で、生徒と積極的なコミュニケーションを図ることによって、目標や内容を明確にした指導計画を作成する能力を有する。これにより、生徒の意欲や自主的、自発的な活動を促し、一人ひとりの生徒が輝くための効果的な運動部活動を展開させることができる。

【取得学部】 体育学部体育学科、健康学科、社会体育学科（スポーツマネジメント領域）、スポーツ文化学部全学科

Ⅱ．小学校体育活動コーディネーター
小学校児童に特化した、発達期に合せたスポーツ活動の指導者

【資格特性】 児童の育成すべき資質や能力を正しく理解して体育授業を展開する能力および体育・スポーツ活動のみならず、小学校全般にわたる体育的行事等を企画・運営する能力を有する。また、地域スポーツ団体との連携を図るための中心的な役割を果たすことができるとともに、児童が生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の育成に資する活動を展開することができる。

【取得学部】 児童スポーツ教育学部児童スポーツ教育学科児童スポーツ教育コース

Ⅲ．幼児運動遊びコーディネーター
運動あそびが得意な幼稚園教諭・保育士

【資格特性】 運動の基礎となる多様な動きや、何事にも積極的に取り組むことができる健やかな心の育ちを促すなど、心身の様々な側面の発達を幅広く獲得する重要な時期である幼児期において、子ども一人ひとりの特性に応じ、かつ幼児期のこころとからだの発達に即した運動遊びを企画・立案することができ、これを効果的に展開させることができる。

【取得学部】 児童スポーツ教育学部児童スポーツ教育学科幼児教育保育コース

Ⅳ. 障がい者スポーツコーディネーター
障がい者スポーツ活動の企画・運営・指導ができる人材

【資格特性】 障がい者が自主的かつ積極的にスポーツ活動を行うことで、スポーツを通じて自らの可能性にチャレンジしたり、仲間との交流やコミュニケーションを深めることができるよう、一人ひとりの障がいの種類や程度、競技のルールや用具等に配慮しながら障がい者スポーツ活動を展開させる能力を有する。また、地域における行政や障がい者スポーツ団体等の関係団体間の連携調整を担う人材として機能することができる。

【取得学部】 体育学部社会体育学科生涯スポーツ領域

※ スポーツマネジメント学部については今後検討する。

○ 共通事項

① 各資格とも、新設 3 科目および既存科目を中心とした 40 単位程度の修得、並びに複数回の社会活動（事前・事後指導を含む）を資格の取得条件とする。

② 取得すべき授業科目に現カリキュラムの「日体大の歴史（日体伝統実習を含む）」および新規科目として各学部に「地域社会とスポーツ」を設定する。

③ 資格取得に必要となる自由選択科目として、新規に「地域ボランティア実習（事前・事後指導含む）」および「地域スポーツ演習」を設定する。

④ 「地域ボランティア実習（事前・事後指導含む）」の展開に関しては、できるだけ多くの実習先を設定することと、本学で展開する公開講座・スポーツ教室等における補助等、幅広い対応を可能とするよう検討する。

○ 今後について

各資格に対応する授業科目の選定とそれに伴うカリキュラム編成および資格取得のための実効性が高い運用方法等を検討する。また、2018 年度からの実施を視野に検討を進めるが、詳細の決定が遅れた場合には、2019 年度からのスタートも考慮することがある。

なお、保健医療学部については、完成年度後のカリキュラムにおいて、可能となる資格付与について検討を行うこととする。